



# 建築人

1

2013

# 建築人

1  
2013

## 目次

34	32	26	24	22	21	16	4	2
理事会報告	建築相談	編集後記	インフォメーション・事業案内	梅田阪急ビル保存・再生への取り組み	テクノロジー 一階聴之	ひろば 仙入 洋	まちづくりは仕事づくり	大阪ホンマもん
								建築人
								木原千利
								Gallery 建築作品紹介
								サービス付き高齢者向け住宅あぶり志紀
								設計・監理 PPI計画・設計研究所
								施工 中川企画建設
								佐川アドバンス株式会社 京都烏丸ホテル
								設計 清水建設関西事業本部一級建築士事務所
								施工 清水建設
								天心聖教伊勢礼拝堂
								設計 竹中工務店
								施工 竹中工務店
								JA大阪中河内ながせ支店
								設計・監理 オリコム一級建築士事務所
								施工 三栄建設 岡村製作所
								記憶の建築 松隈洋
								日本興業銀行本店 1974年 都市の街角をつくる
								匠の巧
								大型美術陶板 大塚オーミ陶業株式会社



大阪ホンマもん

## 年頭所感

(社)大阪府建築士会会長 岡本森廣



新年明けましておめでとうございます。  
 社団法人大阪府建築士会は、公益法人改革に伴う法人移行と運営組織の改革及び活動の活性化を重点的施策といたします。  
 建築業界において大きな問題である①環境エネルギー、②健康（医療・介護・福祉）、③グローバル化・アジアでの展開、④観光・地域活性化（伝統・文化・歴史）、⑤建築技術、⑥雇用・人材等に着眼して、本会が創立以来六〇年間積み上げた社会貢献活動を更に強化・進化・深度化していく意思を明確にして、より一層活動の場を拡げてまいります。  
 それには個々人のスキルやノウハウを引き上げて「現場力」を高めることで、自己分析・能力評価を自己に問い、意識して戦略を練り、具体的に行動することが肝要と考えております。  
 建築士に求められる資質は、自己研鑽・スキルアップ、グループ化、多能工化、ITCの強化など多岐に亘って格段に高まっており、そのツールの一つとして、自治体と協働して耐震診断・補強設計やまちづくり等における地域の活動を推進し、また、専門家団体とともにCPDを全建築士に浸透させるなど、建築業務に対する評価をさらに高めるなど、社会的課題を解決する貢献に繋がります。

## 大阪ホンマもん解説

写真 田籠哲也 文 牧野高尚

大阪のシンボルとして府民に親しまれる名所の一つと言えば大阪城であろう。  
 その城に向き直る形で上町台地に鎮座するのが大阪府庁本館だ。設計は懸賞により選ばれた平林金吾・岡本馨案で進められ、実施は大阪府営繕課による。規模は地上六階建て、地下一階で構造は鉄筋コンクリート造。施工は大林組・清水建設で竣工は一九二六年（大正一五年）。  
 当時は不景気で企業の倒産も多く、巷は大量の失業者で溢れていたが、この頃に施工された建築は本格的なものが多く、その最中完成した庁舎は激動の昭和を生きた建築であり、堀を隔てた古典的な大阪城と見事に調和された佇まい、かつ堂々たる威容を設け、エントランスホールが吹き抜けは圧倒的なスケールと重厚な雰囲気を見事に伝えてくれる。  
 近年は映画撮影などによく利用され、後世まで近代建築の本物として記憶されることは間違いない。しかし、リアルな建築として生き残っていくかは、私達次第なのかも知れない。

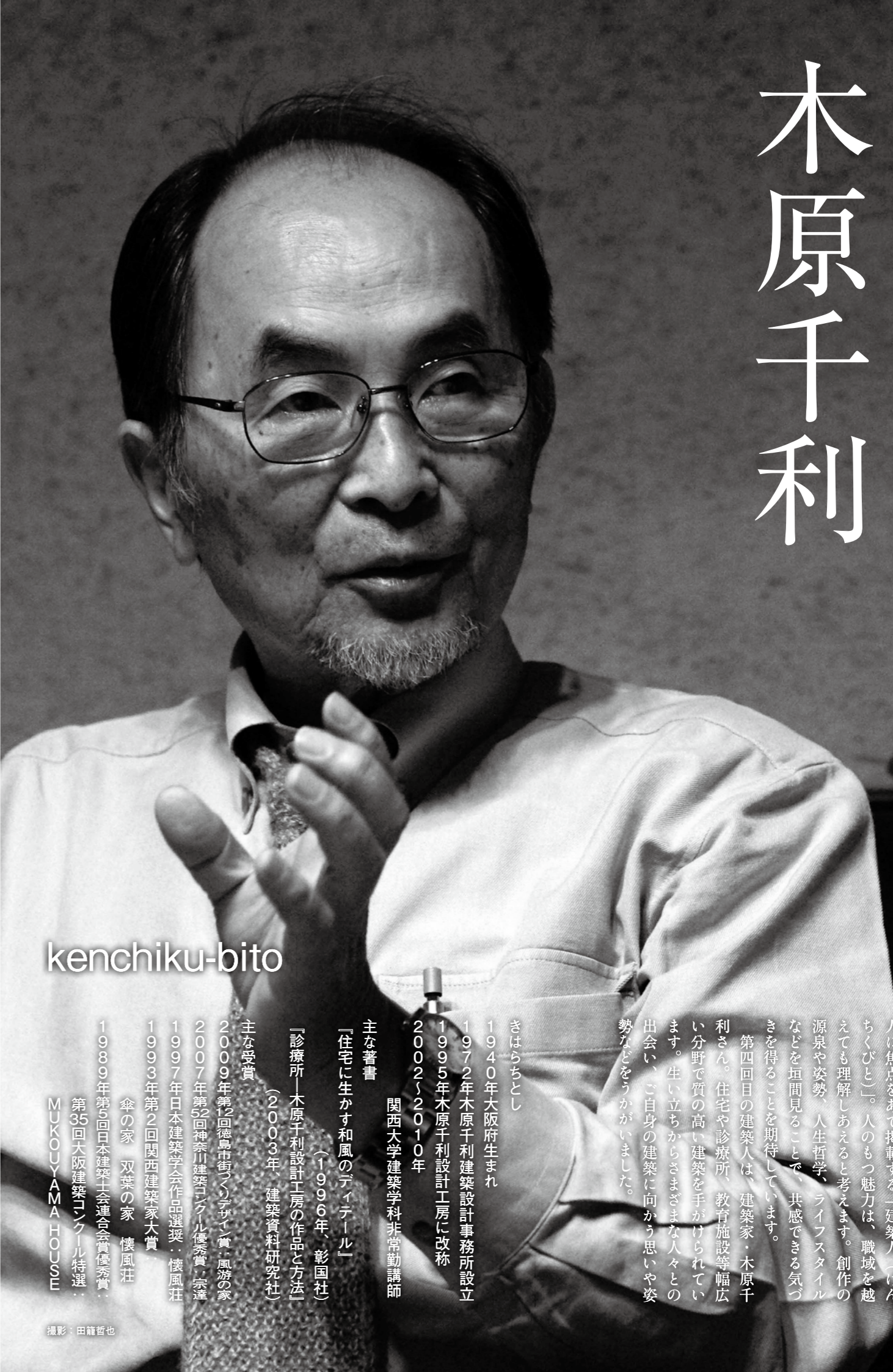
## 建築人 1

2013

監修 社団法人大阪府建築士会 建築情報委員会  
 編集 建築情報委員会『建築人』編集部  
 編集人代表 米井 寛 飯田英二  
 編集人 荒木公樹 橋本頼幸  
 筑波幸一郎 橋本頼幸  
 牧野高尚  
 事務局 山本茂樹 母倉政美  
 印刷 中和印刷紙器株式会社



# 木原千利



kenchiku-bito

建築そのものではなく、建築に関わる人に焦点をあて掲載する「建築人（けんちくびと）」。人のもつ魅力は、職域を越えても理解しあえると考えます。創作の源泉や姿勢、人生哲学、ライフスタイルなどを垣間見ることで、共感できる気づきを得ることを期待しています。

第四回日の建築人は、建築家・木原千利さん。住宅や診療所、教育施設等幅広い分野で質の高い建築を手がけられています。生い立ちからさまざまな人々との出会い、ご自身の建築に向かう思いや姿勢などをうかがいました。

1940年大阪府生まれ  
1972年木原千利建築設計事務所設立  
1995年木原千利設計工房に改称  
2002〜2010年

関西大学建築学科非常勤講師

主な著書  
『住宅に生かす和風のディテール』（1996年、彰国社）

『診療所―木原千利設計工房の作品と方法』（2003年、建築資料研究社）

主な受賞

2009年第12回徳島市街づくりデザイン賞・風遊の家  
2007年第52回神奈川建築コンクール優秀賞・宗達  
1997年日本建築学会作品選奨・懐風荘  
1993年第2回関西建築家大賞

傘の家 双葉の家 懐風荘  
1989年第5回日本建築士会連合会賞優秀賞  
第35回大阪建築コンクール特選  
MUKOYAMA HOUSE

撮影：田籠哲也

## 田舎での体験

森本 木原先生は、どのような場所で幼少期を過ごされたのでしょうか？

木原 第二次世界大戦中の昭和二十五年（一九四〇年）、吹田市の片山町で生まれました。やがて戦争が激化する中、母方の里である広島山奥に疎開することになりました。そこでの生活は、大変厳しいものでしたが、山や田んぼに囲まれた田舎で幼少期を過ごすことにより、自然がもたらす体験が私の潜在意識に刻まれた気がします。例えば、田んぼは冬が明けると水が張られ水面に山々を綺麗に映し取ります。やがて二斉に緑に変わり、秋には黄金に染まる。冬、雪で一面真っ白に覆われると、一変して風景から田んぼが消えるのです。やんちゃな盛りですから、友達と小川に魚を捕りに行くと、そこには木漏れ日が水蒸気によって映し出されています。家屋の窓を開放すると、のどかな風景がどこまでも続き、水平な広がりを感じました。山の夜道の心細さ、灯りの救われる気持ち、今から思うと、そこでの体験はまちなかでは得ることのできない貴重なものだったと感じています。中澤 感性が磨かれたということですね。何歳から何歳まで、そこで過ごされたのですか？

木原 五歳から一五歳までです。その後まちなかに出ました。数年間、田舎で自然との関わりの中で生活していたのが、まちなかになると人との関わりが深く、当初は非常に緊張したのを覚えています。得ることのできる体験が、自然のものではなくて、人間により作りだされたものばかりでしたからね。しかし、それにも慣れた頃、建築をやりたいと思いはじめたんです。

## 日本的なものへの意識

木原 よく笑い話で言うんですけど、私は飛行機や船が苦手なんです。人間は、土の上を歩く生き物だと思っているから、空を飛ぶと落ちるかも知れないし、水の上では沈むかも知れない。森本 それでは、海外旅行は行っておられないのですか？

木原 数回は行きましたが、ほとんど行っていないですね。苦手なことをしなくても、代わりとして日本のものを見るのも一つの手かなと考えたんです。しかし、その頃の私には日本の何を見たら良いのかさえも分からない状況だったんです。そのような時に、茶室の本を書かれた帝塚山学院大学の岡田孝男先生による茶室を案内してくれる勉強会があり、事務所を休んで行っただけです。茶室や茶道に対して深い思い入れがあった訳ではなく、むしろ縁遠い存在だったのですが、なぜか気になり参加し

ました。最初は良く分からなかったのですが、回を重ねるうちにその空間の持つ自然との関係や人に対する配慮などが少しずつ見えてきたんです。今思うと、田舎暮らしをしていたころに培った自然に対する潜在意識に働きかけたのでしょうか。北 今の話を聞くと作風や方向性が自然な流れでできていった印象をもちましたが、同世代の中で刺激などから自分の進む方向への意識はあったのでしょうか？

木原 私は、どちらかというと図面を描くことから建築界に入っていますので、技術力はあったと思いますが、自分の進む方向などは意識していませんでした。その頃、関西では村野藤吾先生や坂倉準三先生が活躍されており、建築家というのは遥か彼方の存在でした。私にはまだ建築家としての意識はなく、人間が生活する空間や美しいものに対して思考するかたわら、実務をこなしていた感じです。少し目的が定まったのは、後に出江寛さん達に出会ったことですね。

## 人との交流を通して

荒木 建築を志して勉強を始めた頃の話をお聞かせください。木原 一五歳の時、疎開地からあてもなく一人で出てきましたが、人との出会い

に恵まれ、人生を良い方向へと変えてくれたのだと思います。工業高校の同級生に安藤忠雄さんの双子の弟である北山孝雄さんがおられました。彼からは多くの刺激を受け、同時に彼を通じて安藤さんや出江さんとお付き合いさせていただくことになりました。その後、出江さんに誘われて出入りするようになった竹中工務店に森忠彦さんが在籍されていました。ある時、実家に招待され、彼の父親である森忠先生<sup>1</sup>と巡り合います。村野・森建築事務所で村野先生と共に活動された方です。森先生には、非常にかわいがってもらい、様々なことを勉強させていただきました。人は、一つのことを強く志している時、不思議と必要な人に巡り合うのです。そして出会った人を通じて、また新たな人と出会う。森先生をはじめとする多くの人との交流により感性が磨かれたと思います。大学でのパターン化された勉強ではなく、交流を通して勉強させていただいた結果、今の私があります。人との出会い、交流が私の建築のベースにあるのだと思います。中澤 森先生については、あまり知られていないように思うのですが、どのような方だったのでしょうか？

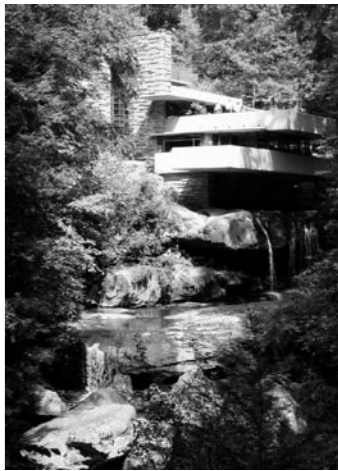
木原 村野先生の仕事を縁の下で支える役割に徹しておられた方でしたので世間で



<sup>1</sup>森忠一（1908-1999）1935年に村野建築事務所入所。以来故村野藤吾氏と共に設計活動を続け、1949年に村野・森建築事務所と改称。1968年に黄綬褒章を受章。

上段：幼少期を過ごした田舎の風景  
中段：大徳寺玉林院南明庵・露床の席  
下段：MUKOYAMA HOUSE  
写真提供  
上段・中段・下段：木原千利設計工房





\*2森口整形外科「建築文化 1980年11月号」彰国社  
\*3木原千利／多田雅著「建築設計資料90 診療所—木原千利設計工房の作品と方法」建築思潮研究所 2003年

上段：落水荘 (1935年、F・L・ライト)  
中段：森口整形外科 (1980年)  
下段：建築設計資料90診療所—木原千利設計工房の作品と方法 (建築資料研究社)  
撮影 中段・下段(表紙写真)：松村芳治

はほとんど認知されていません。それを、私は少し残念に思っています。森先生には、勉強会などでいろいろと教えを受けました。また自分の親戚や友人の仕事を紹介していただきました。村野・森建築事務所では要望や規模的に受け難いと判断されたのでしょう。まだ、事務所に行っておられた頃なので、勤務後や休日在家へお伺いして一緒に粘土模型を作ったり、プランニングを進めたりしました。村野先生の思想も、森先生というフィルターを通して間接的に学んでいたと思いますね。森先生は、国からのフランス留学の経験を持ち、エレガントな雰囲気の話をよくされています。まことに厚かましい建物に駄目だということ、スケールを抑えた建物をつくるようにおっしゃられていました。軒の高さを少しでも低く抑えるには、スパンを適切に計画し軒桁の背を低くする。そうすれば自然と屋根が低くなるのだと言っておられましたね。森先生に出会えたおかげで、抑えの効いた設計ができるようになったのだと思います。

**自由な発想**  
中澤 安藤さんと親交があったと伺いましたが、海外旅行に誘われたことはなかったのですか？

それ以来私の壁仕上の定番となっています。森先生に教えていただいたことなのですが、壁はホリゾントだと。つまり、人間が立ったり、絵を飾ったりする背景となるものが壁だということ。壁が前面に出すぎると、空間が狭く感じたり、浅ましく感じたりします。あくまで家中での主役は住む人であり、材料ではないのです。建築が主役になったら駄目なのですよ。

**傘の家―自邸での試み**  
荒木 私が一番興味を持った作品は、木原先生の自邸「傘の家」\*4です。長屋を切り取った小さな敷地の中に、その後続く作品のエッセンスがコンパクトに網羅されています。その一つとして地下に小さな部屋がありますが、その計画の経緯などを知りたいと思いました。

木原 「傘の家」は、長屋の先端を切りとって建てています。以前からその長屋に住んでいたのですが、そこを出てマンションにでも住もうということになり、探していたんです。いくつか見るうちに女房が「建築をやっているのだから、土の上にあなただesignして、その家に住むのが一番いいと思うんだけど」と言ってくれてね。当時、借家だったので大家から買い取り、建て替えることにしました。まだ、周り



木原 若い頃に何度か見学に行ったことがありますし、安藤さんの作品もよく案内してくれました。彼の建築を見る速さには普通の人とはついていけないよ。立ち止まることなく歩いて通り過ぎるだけ。それでいて全部理解しているのですから、たいしたものでした。実はインド旅行にも誘われたのですが、彼の精力的な動きにはちよつと付いていく自信がなく、お断りしたことがあります。彼からは多くの刺激をもらいましたね。

中澤 海外の建築から受けられた影響はありますか？

木原 少ない海外旅行の中でも、アメリカに行つたことがあります。現地で車を借り、フランク・ロイド・ライトの建築を見て廻りました。ライトの建築をそれまで本等で見聞きしていましたが、実物を体験すると、それが自由に発想されていることに気付かされました。その頃の私は、施主に頼まれて設計するということが非常に制約を感じていました。乗り越えるための策を練つても、やはり施主の力の方が強いので負けてしまう。東大のような難関大学を卒業している場合はその権威である程度説得できるのかも知れませんが、そうではない場合は別の方法を模索しないといけない。その方法が、自由な発想力であると感じました。建築

がほとんど平屋だったので、普通に二階建てを建ててしまうと、周辺への光や風を妨げてしまう。家の角を丸くすれば、それをやわらげることができるという発想で円形を合わせた平面形状にしました。中澤 そのアイデアを聞いた時、奥さんはなんとおっしゃられましたか？

木原 「私はどうとでも住みなせるのであなたの発想を実験する良い機会だからやつてみたら」と賛同してくれましたね。それで計画に取り掛かるのですが、木造で円形の建物を造るのは構造的に難しい。太鼓のようなイメージで、上部が円形になっているだけなら難しくないので、奥さん、H型鋼の輪を造りそれに垂木を並べることにしました。金物の扱いは得意なのでね。後は、風が吹いた時に屋根に作用する浮き上がりを防止する必要があります。ドームなどと同じように、屋根は沈むのではなく、浮き上がるのですね。大工と相談して梁に傘のような形状の金物を取り付け、それを防止することにしました。ご質問の小間は、設計中「二階から少し下りたところに茶室なんかいいね」ということになり設けました。茶室と言ってもお茶の作法が正式にできるようなスペースは取れそうにありません。しかし、お茶もやろうと思えばできる空間なら確保できそうでした。「が」と「も」

家が制約を乗り越えるための策を見つけた気がしました。

中澤 その後に手掛けられた建築には、それまでとは何か変わった部分があったのでしょうか？

木原 アメリカから帰ってきて最初に手掛けたのは、「森口整形外科」\*2という三角形の平面を持つ内外部とも真っ白の診療所です。患者に目を向けつつ、自由に発想したイメージで計画しました。それが完成した時に建築雑誌に掲載され、評価されました。やはり自分のイメージを大事にして創ることが間違ではなかったのだと確信しましたね。死ぬ思いで飛行機に乗ってアメリカに行った成果がありました(笑)。

**荒木 「建築設計資料」\*3の最初に掲載されている作品です。**

木原 その写真には写っていませんが、建物の前に市バスの停留所があります。それも建物に合ようにシンプルな屋根を持つものに造り替えました。施主にお金を出してもらえるように説得し、役所とも従来のデザインが悪さを理由に交渉したんです。今では、同じようなデザインで造られたものが多くありますけど、当時は珍しい形状でした。森先生から聞いた話なのですが、フランスではバス停に企業の広告があり、その企業が掃除やメンテ

の違いですね。茶の湯をたしなむ女房に言わせると、それなりに楽しめるようです。

**和の表現**

木原 施主に和室を要望された時、若い頃はよくある普通の和室を模倣していたのですが、やがてそのお決まりの様式に対して何か物足りなさを感じるようになりました。どういう表現をすれば新しい感覚の和室になるのかを考えていると、茶室に行きついたので。非常に新しいものを感じさせる空間がたくさんあるんですよ。森本 古い茶室に斬新なものを感じられたということですね。

木原 そういうことです。床の間を例に上げると、掛け軸代わりに風景を切り取る窓を設けた円窓床や、霞に見立てた違い柵の後ろに富士山の掛け軸をかけた霞床などは、今見てもユーモアがあり新鮮です。下手をすると命とりになる可能性すらあった時代、このような表現の茶室には時空を超越したのを感じます。同時に、表現の自由が確保された今の時代、もっと画期的なものができるように思うのです。現代の材料を使つて、現代の生活にも合うような和室ができないだろうかとも模索していましたね。

ナンスを行うことになっているそうです。このバス停もいつまでも綺麗に保つて欲しいという思いから、役所にその提案もしたのですが、それは聞き入れてもらえませんでしたね。

**素材について**

木下 素材の扱いについては、実践を通して覚えられたのでしょうか？

木原 意外に思われるかも知れませんが、若い頃、鉄工所でアルバイトをしていた経験があるんですよ。そこでは、手摺などの金物製作を行っており、溶接の仕方など一通りの技術を学びました。以来、鉄はよく理解できている好きな素材の一つです。茶の湯で使用される茶釜の色は、和室によく馴染むと思っっているんですよ。森本 左官仕上げについてはどうですか？

木原 駆け出しの頃、よく左官下地にペンキを塗って内壁を仕上げていました。白という色は完全に素材を消してしまふんですね。消さない素材として真っ先に思いつくのは日本の伝統的な土壁や聚楽壁なのですが、私はもう少し和から距離をおいた仕上げを模索し始めました。試行錯誤を重ねる中で、砂入りプラスターの中に色粉を混ぜ、左官で仕上げたんです。それが見事自分の感性に合い、

りますでしょうか？

木原 代表的なものとして「水無瀬の家」\*5では、床の間の正面にガラスをはめました。光の強弱や雲、月、夕焼けが映し出され、時間や季節によって見え方が変化します。また「懐風荘」\*6では、池と外壁とで構成した屋外の床の間や鉄とガラスで造った違い柵を設けました。現代の素材を使いながらも自然を感じる空間に仕上げることで、掛け軸がなくてもよい現代の和室としています。四季折々で掛け軸を取り替えて楽しむのも風情があつて良いものですが、取り揃えるのが大変ですからね。

**懐風荘・双葉の家―創造の源**

中澤 私は「懐風荘」といえば、中央の大空間とそこに取り付けられた二層の高さを持つ木製建具が印象に残っています。掲載誌で拝見した時に、それが実現可能かということなどをどのように判断されているのか知りたいと思いました。

木原 あの大空間の柱は、強度を持たせつつ建具の戸袋としても機能するように、二列にならべています。棟廻りは、ねじれに対抗するために取り付けた月の輪状の金物を、木で挟み込みました。強度をもたせるために鉄を、優しく見せるために木を用いています。強いものを強いまま

\*4傘の家「新建築住宅特集1990年10月号」新建築社  
\*5水無瀬の家「新建築住宅特集1991年6月号」新建築社  
\*6懐風荘「新建築住宅特集1993年7月号」新建築社

上段：傘の家 (1990年)  
中段：水無瀬の家 (1991年、床の間部分)  
下段：懐風荘 (1993年)  
撮影 松村芳治





表現するのではなく、少し力を抜いてあげる。それは、俳句などにも取り入れられており、日本人の持つ優れた感覚だと考えています。

中澤 初めてのことに挑戦するときに、失敗を恐れることや悩まれることはないですか？

木原 もちろん、悩みますよ。「双葉の家」\*7に小さな和室があるのですが、その計画中にすごく悩んで何回も模型を作り直していました。その姿を見かねた施主が「そこまでやって、失敗したのなら、また造りなおしたらいい」と言ってくれたのですよ。そのような姿勢を見せることも時には必要なのかも知れませんが（笑）。

中澤 良い施主ですね。

木原 この家には水盤があります。若い頃からよく行っていた京都で水面に月や建物を映し出すのを見ていましたので、そこから発想しました。光が入らず植物が育たない庭の場合、水を張ると空間が昇華します。その時に気をつけることは、水が透けるため、水底のデザインが重要だということです。カルロ・スカルパのブリーオン家の墓地では、池の底まで石を張り丁寧にデザインされています。同様に、この家では那智黒を縦に植えるように張り、渦巻き状に水底をデザインしました。思い

つきも多少ありますが、今まで見たものや感じたものを自分の中で消化した上で、イメージを膨らませていますね。

自分の寸法を持つ

森本 以前の「建築人」\*8で安原三郎さんにインタビューさせて頂いたとき、「建築知識」で特集された座談会\*9の最中に声をかけてもらったとお聞きしました。

木原 京都の横内敏人さんの事務所で石井修さんと竹原義二さんを交えて寸法について話したときのことですね。

森本 それを知り誌面を拝見したのですが、障子の棧の話題の時、木原さんは見付け寸法を四呎にしていると話されていました。

木原 若いときは、障子の棧を繊細に、極端に言うか消したいと思っていました。消えないんですけど意識の中での話です。障子は、建築家の個性がでていて面白いんですよ。例えば村野先生は少しきらびやかで雅（みやび）を感じる。吉田五十八先生は江戸っ子のいきの良い割付を、吉村順三先生はしっかりとした割付をされています。障子のデザイン一つをとっても、その人が持っている感性が現れるんですね。

中澤 面白いですね。今度から障子ばかりに目がいきそうです。先程の話の四呎の

見付けは相当細いと思うのですが、どんな工夫をされているのでしょうか？

木原 棧を四呎にするには、それだけ良い材料を使わないといけないのです。また、それを見極める目も養わないといけないですね。待庵では、障子の棧を細くするために竹を使っています。竹は非常に強いのですからね。二畳の間だと、それなりの寸法で締めないと空間とのバランスが合わないからでしょう。

森本 木目が二本通っていないといけないから四呎なんだ、というやりとりがありましたね。

木原 そう、年輪が最低二本は通っていないと強度が足りないのです。数奇屋をつくると木目も非常に気になりますよ。杉と檜では、見え方が全然違いますからね。この場所にはどんな表情が相応しいかなと考えていくわけです。

しなやかに流されず  
荒木 「不盡の舎」\*10の茶室の壁は、一六呎の鉄板の上に左官で仕上げられています。柱のない鉄板だけの極限にシンプルな構造体で、大胆だと感じました。そのようにされた大きな要因があるのでしょうか？

木原 この計画では耐火性能が必要だったことが要因です。茶室を検討している

時、木材を下地としては使えないことが分かり、他の方法を考える中で鉄板を土で被覆することを思いつきました。それなら役所も認可できるとのことでした。

荒木 何か強い意図があるとはばかり考えていたので、驚きです。

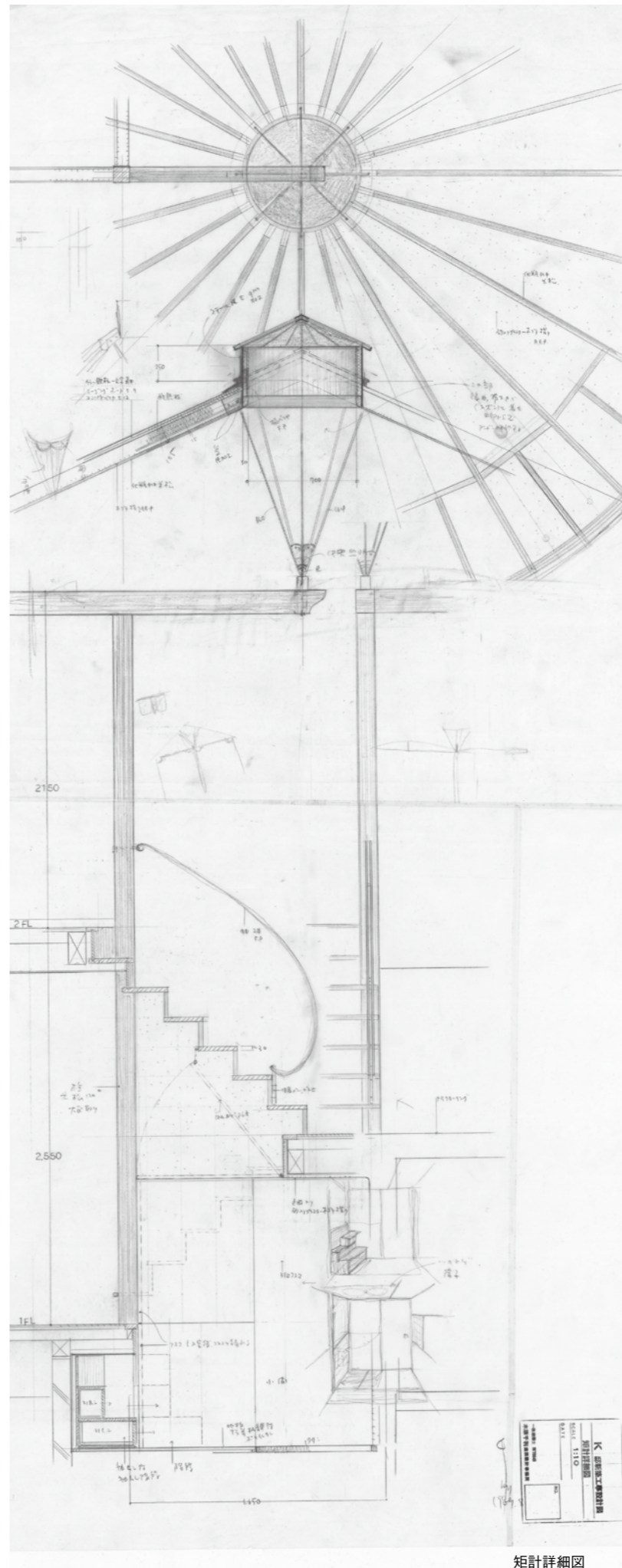
木原 役所の指摘などを受け入れ、むしろ法を逆手に取るかたちで空間を創り上げました。抵抗せずに、その都度、なにか自分のものを出していますね。

森本 しなやかに流れながら、よい所にたどり着く感じでしょうか？

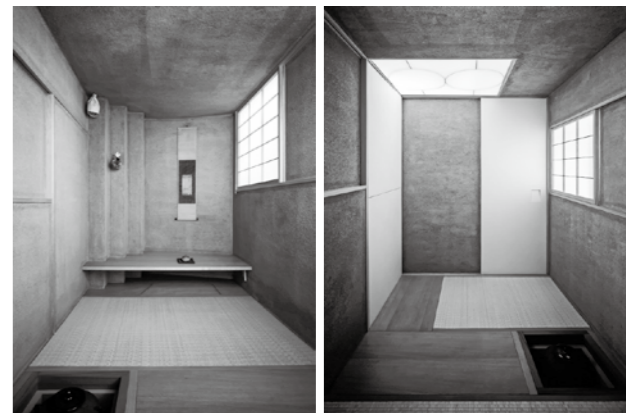
木原 そうです。最後は、現代の茶室へたどり着いているんですよ。レクサスの一番新しいパンフレットに「美原の家」\*11の和室の写真が使われています。目の高さや光の取り方が私たちの感覚と少し違うのですが、それはロンドンのカメラマンが撮ったからです。彼がこの写真をブログで紹介していたのを偶然トヨタのコーマーシャル製作者が見たようで、パンフレットに掲載させて欲しいとの依頼がありました。最先端の運転席に和を感じる要素があることを言いたかったのでしょう。完全な和だったらもつと古くて良いものが他にあると思うのですが、私の手掛けた和室に現代的なものを感ぜられたのだと思いますね。

- \*7双葉の家「新建築住宅特集 1992年10月号」新建築社
- \*8建築人2012年7月号
- \*9建築知識2007年2月号
- \*10不盡の舎「新建築住宅特集 2007年8月号」新建築社
- \*11美原の家「新建築住宅特集 1998年5月号」新建築社

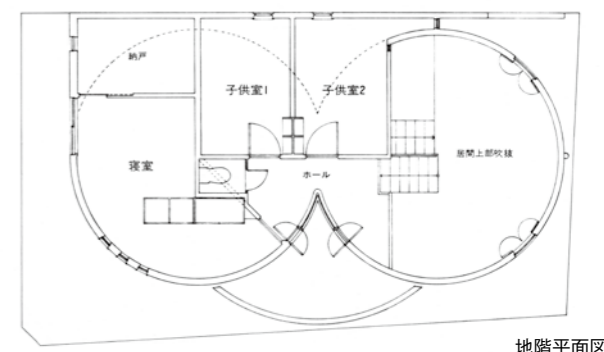
上段：双葉の家（1992年）  
中段：西の建築家4人が語る寸法談義／石井修+竹原義二+木原千利+横内敏人（建築知識2007年2月号）  
下段：不盡の舎（2006年）  
撮影  
上段・下段：松村芳治



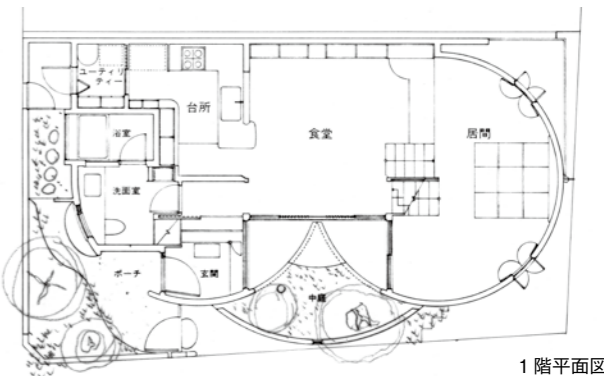
矩計詳細図



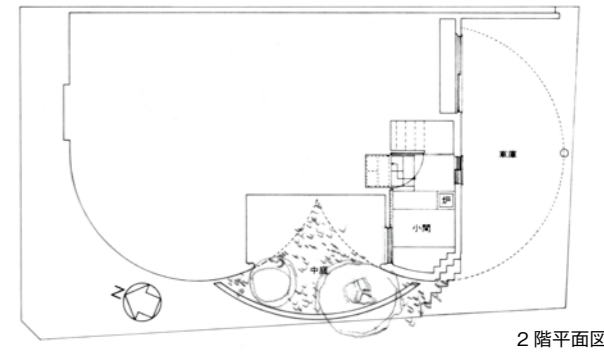
地階小間を見る



地階平面図



1階平面図



2階平面図

傘の家（1990年）  
設計 木原千利設計工房  
施工 増見工務店  
構造規模 木造2階建て  
敷地面積 85.99㎡  
建築面積 58.55㎡  
延床面積 112.70㎡

主な仕上げ  
屋根 着色亜鉛鉄板一文字葺き  
外壁 モルタル刷毛引きの上吹付  
床 ナラフローリング  
壁・天井 砂入りプラスター木ゴテ摺  
AEP塗





**遠距離・診療所―広がりの秘訣**  
 森本 住宅以外にも診療所も多く手掛  
 けられています。気にかけておられるこ  
 となどがあればお聞かせください。  
 木原 先程お話しした森口整形外科に携  
 わった後、診療所の仕事に恵まれました。  
 その二つに水無瀬に設計した産婦人科医院  
 があります。それまでの産婦人科は、病  
 気や怪我をした人を治療する病院や診療  
 所と同様に日陰に入って行くようなイメー  
 ジのものが多かったのです。赤ちゃんが産  
 まれるという夢のある場所なのに、それ  
 は相応しくないと考え「住宅に在るよう  
 に居心地の良く、明るい診療所を建てま  
 しょう」と提案しました。それが完成し  
 た時、産婦人科の先生の間で話題にな  
 り、非常に評判が良かったのです。それ  
 以降、産婦人科の依頼が増えました。産  
 婦人科医は、昼夜を問わず対応しないと  
 いけない非常にハードな職業のため、その  
 上階を住まいとしてスタートされるケース  
 が多々あります。経営が軌道に乗ると生  
 活の場を近所に分離されるため、数年後  
 には住まいも任せていただくことになりま  
 すね（笑）。  
 中澤 うらやましいお話です。秘訣があ  
 れば教えてください。  
 木原 診療所の先生以外にも、有り難い  
 ことに設計をさせていただいた方の親族か



らの依頼が多くあります。設計には様々  
 なやり方があり、自分のイメージを押し  
 通してつくられる方もおられますが、私  
 は相手の使い勝手のことを考え、自分の  
 イメージと格闘しながらつくっているのが  
 秘訣かもしれませんね。  
 森本 空間的には、居心地の良さや安ら  
 ぎを提供していくというのが住宅と診療  
 所とに共通しているということですね。  
 木原 我々は、モダニズムの影響を受けた  
 世代であり、人の動きをよく考えてプラ  
 ニングすることに関しては鍛えられてい  
 ます。住宅だと昔は手伝いさんの、今  
 で言えば主婦の動線が大事と教え込まれ  
 ましたからね。住宅での動線の考え方が、  
 診療所では患者や医者、看護師、事務  
 などの動線の処理につながっています。当  
 り前のことですが大事なことです。  
 木下 最近になり、様々な地域で仕事を  
 されている印象を持っているのですが、活  
 動範囲は広がっておられるのですか？  
 木原 以前は関西以外での仕事はそんな  
 になく、数年前に宇都宮で診療所を設計  
 したのが最初の遠距離だったと思います。  
 私の事務所では、面識のない人からの相  
 談があった時、最初はこの大阪の事務所  
 に来ていただくようお願いしています。す  
 でに決心されている方はたとえ遠距離だ  
 としても来ていただけます。その段階で、



木原の作品をかなり調べられており、感  
 性は通じ合えていることが多いですね。  
**震災後のアフターフォロ**  
 荒木 仕事がつながると言う意味で僕が  
 感銘を受けたのは、先生が手掛けられた  
 住宅の阪神淡路大震災での被害状況を  
 まとめられた『住宅建築』\*12の特別記  
 事です。  
 木原 地震発生直後、阪神間で手掛け  
 た多くの建物とその施主の安否確認を行  
 いました。そして、事務所にスタッフを集  
 め、連絡が取れた所から手分けして、水  
 を持つて廻りました。数ヶ月間、仕事に  
 なりませんでしたけどね。「木原さんのお  
 かげで大丈夫でした」とか、「隣の建物の  
 鉄骨の柱が外壁を突き破って入ってきて大  
 変だった」とか地震時の悲惨な状況をお  
 聞きました。その時に調査した内容を藤  
 田宜紀先生にまとめていただいたのです。  
 被害の大きかった地域では構造家による  
 設計を取り入れた建物であっても傾き、  
 修復が必要なものもありました。その計  
 画を善意で行ったのですが、混乱期の情  
 報不足と判断の誤りにより、それが裏目  
 に出ることもあったんです。  
 荒木 本場にクライアントの為になるのか  
 というところを厳しい状況下で判断しない  
 といけないということですね。

木原 基礎の構造計画がいかに大事かと  
 いうことです。それを行っていてもこのよ  
 うな状態になりますからね。  
 荒木 地震後自分の関わった作品を調査  
 し、修復の設計監理したものを発表され  
 たことは、完成後も施主とのつながりが  
 ないと出来ないことです。木原先生のこ  
 れまでの作品ではあまり伝えられていな  
 かったのですが、建築家が技術的にも社  
 会的にもきちんと向き合っていく良い例だ  
 と感じました。  
**森の栖―親子をつなぐ物語**  
 森本 ニュータウンと雑木林の境界に建つ  
 「森の栖」\*13では、木下先生との関わり  
 があったとお聞きました。  
 木原 当時、関西大学で講師をさせてい  
 ただいており、木下先生と研究室の学生  
 達にも協力してもらいました。最初は谷  
 の実測からでしたね。  
 木下 そうですね。谷は、木々が育った  
 魅力的な森で、大きな三角定規を作って  
 測量し、現状を図面化し、模型をつくり  
 ました。谷に向かって建物が跳ねだす木  
 原先生のアイデアが当初からありました  
 ので、その長さや方向を精緻に検討する  
 ために、必要な調査だと思ったからです。  
 木原 敷地の裏手が谷に面していて、そ  
 こだけがスポッ的に開発がされずに、非

\*12住宅建築 1995年8月号  
 上段：こいけLadies Clinic (2005年)  
 中段：奥田産婦人科 (2000年)  
 下段：被災住宅の修復―木原千利  
 建築設計事務所の場合 (住宅建築  
 1995年8月号)  
 撮影  
 上段・中段・右ページ：松村芳治

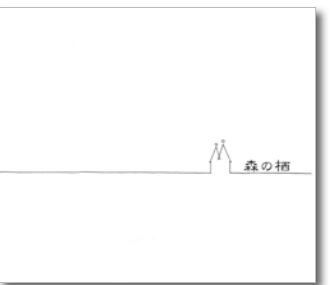


双葉の家



甲陽幼稚園





\*13 森の栖「新建築住宅特集 2006年11月号」新建築社

上段：森の栖（2004年）  
中段：「森の栖」表紙（2007年、関西大学建築学科都市設計研究室発行）  
下段：関西大学茶室「千里庵」（村野藤吾設計）  
撮影  
上段：松村芳治  
下段：荒木公樹

常に良い風景が残されています。以前、森先生の弟さんがそこに平屋の家をお持ちで、その二階に増築したいという話がありました。老朽化した建物で構造にこれ以上の負担をかけられないと判断し、屋根に穴を開け鉄骨の柱を四本立てて増築しました。息子さんが大きくなるなら、自分の終の棲家のようなものを造れたらいいなという話になり、できたものが「森の栖」です。父親にぶらさがって成長したのだから、家も父親が造ったものにぶらさがろうというになり、元あった鉄骨フレームを残し、そこからこの家は吊られていきます。近所の人は、フレームだけを残して工事している、何ができるのだろうと言っていたようです。

森本 私も雑誌で見る限りでは道路側からの建ち方がわからなかったので、気になりインテリアを前に見に行ってみました。木下 この時は、学生たちとともに計画時の打合せから竣工するまで立ち合わせていただき、その過程を一冊の本（中段写真）にまとめました。森先生のアドバイスから、道路に対して屋根を突出させないように配慮されて、木原先生が増築の設計をされた以前の住宅の姿も記録さ

日本人の住まい方を考える  
森本 ところで、現代の日本の住まいをどうお考えですか。

木原 マンションができてから玄関が持っていた意味合いが薄れた感じがするんですよ。玄関は、出会いや別れの空間でもあり、その空間がなくなった感じがしているんです。そのため、丁寧に挨拶をして人を迎えるという日本人の心が徐々に失われている。靴を脱いで上がる時の結果、外から中に入るときの気持ちの切り替えの空間を用意していることは日本人のすばらしさだと思います。バリアフリーは大事ですが、段差があることで、玄関で膝まづき目線を下げて挨拶しても不自然ではないのです。日本人が持っている気持ちの表現方法や礼儀を大事にしたいなと思うのです。そういうところをわれわれ建築家が、一人でも意識してメッセージを送ればいいかなと思つてやっているんですけどね。だから最近の作品は、玄関に畳を敷き、自然と膝まづき目線を下げて挨拶ができる設えにしています。



せていただいています。

木原 打合せ段階から工事中まで、様々な立場の人たちがいる中で体験できたことは、学生さんが社会に出た時にきつと役立ちますよね。

木下 本当によい勉強をさせていただいたと感謝しています。この貴重な体験を共有するためにも、本作りでは、誰が読んでもわかるように仕上げることを心がけました。鉄骨から吊るされた建物だけを切り取れば大胆に見える形態も、前後には、ある家族の一連の物語がありますので。

### 大学教育に携わって

荒木 木原先生は関西大学では一回生を教えられていたと聞きました。それは大学からのリクエストだったのでしょうか。木下 そうです。一回生の後期の授業をお願いしていました。最初にどんな先生に教わるのかということ、学生にとって重要なことだと考えたからです。

木原 私なんかが大学で教えるなんて、思いもしませんでした。お世話になっていた瀧光夫先生から誘って頂いたのでお引き受けしました。

木下 価値観が多様化していく時代の中で、日本の伝統の中にある素晴らしさを残したいという先生の想いを聞くことは、まるで化学反応が起きるかのように学生

### 施主と感性を共有する

森本 お話を聞いていると、クライアントの日本人らしさや感性を引き出すための空間を設計されている感じがします。

木原 そういうのも必要だと思つたんです。我々日本人は、自然に対し情緒豊かな感性を持っています。だから、それを感じることで空間を設えておき、工事現場で施主に伝授するんです。例えば「ここから見た月は非常にきれいですよ」という風に伝授することで施主の感性を底上げし、共有しています。クライアントには医者や社長などハードな仕事をこなされている方が多く、美しいものを見ることによりその疲れを癒し活力を生む空間になると思つたのです。

森本 工事中に「こういう風に家を楽しみたいよ」と取り扱ひ説明をされているんですね（笑）。

木原 プランや模型で説明をしてもなかなか分からないんですよ。自分のイメージを現場で少しずつ伝えていくことで徐々に興味が変わり、出来上がった時に「あんたが言った通りに光がまわってきたわ」と感激してもらえます。一年くらい経って訪れると「木原さんここに光が入ってくるやろ。これええやろ」と逆に自慢してくれるのです（笑）。

中澤 自分で発見した気分になっているん

たちを良い方向へと導いていただけるとはなにかと期待しました。

木原 サッカー選手だと、子供の時からやつているから、基礎が出来てきているじゃないですか。しかし、建築は大学等で初めて学びます。建築に向いているのか本人たちも暗中模索。そんな状態の時に、いきなり詳細の話をして理解してもらえないので、むしろ建築のいろいろなことを話したあとに、住宅の課題をしてもらいました。

木下 通常は非公開の茶室を特別公開の時期に各自見学に行き、そのレポートを提出する課題もありましたよね。

木原 スケッチも描いてもらいました。関西大学のキャンパス内にも村野先生が設計した茶室があるのですが、惜しいことに茶道部員しか使用していませんでした。それもお願ひして講義中に見学できるように変更してもらいました。

カフェテリア匠―学びに相応しい場  
河野 大阪大学で手掛けられた「カフェテリア匠」について、お聞かせください。

木原 ある阪大の教授が、以前私が設計した住宅を借りられました。情報工学系の人でデザインについても造詣が深く、その住宅をととても気に入られたのです。数年後、その方が阪大の総長になられ、「勉

ですよね。

木下 先生の作品は、四季の移ろいや時の流れを感じる仕掛けが家の各所に散りばめられているので、ある意味、動画でとらえないと真実は見えてこないですね。形式としての和ではなく、自然との関係性の中の和を見出すための増幅装置のような建築なのだと思います。

木原 家には、そういうものが必要だと思います。日本人は欧米人とは違い、地について、庭を見ているいろいろなことを感じながら生活をしている。そこにまたま、鴨居があり、畳が敷いていただけのことでは和になりきれない。その中に詩情がいらぬでしょうね。例えば板の間でもそういう心がその中に入っていれば、和を感じますよね。和風だからといって柱や梁、野地板を見せたいというのは、私は違う気がするんですよ。

荒木 自然などの大切なものを日常的に感じる空間で人生を重ねていくことが日本人にとっては重要だと伝えることは、すばらしいと思います。

### 良い建築の探求

森本 二つの作品を丁寧に創つておられる印象ですが、どのくらいの期間をかけられているのでしょうか？

木原 期待に応えようとすると様々な検

強する環境に相応しい美しいキャンパスを整備したい。まずは教職員がゆつたりと食事をする場所を考えてほしい」と相談を受けました。そこで、うどん屋があった場所に焼きたてのパンが食べることのできるカフェを提案したんです。

中澤 大学で焼きたてパンが食べられるのはいいですね。

木原 私もそう思つたのですが、大学の施設担当者が必要がないと反対されました。あきらめきれずにおすすめていきますと、学生へのアンケートをとられました。結果は好評で、実現しました。欧米だと、教授と学生が食事をしながら語り合え、マナーも学べる場があります。新しいカフェでは、そういうものを兼ね備えた空間にしたいと思つたんですね。椅子もデザインナーが作ったものを入れていきます。その座り心地に感銘を受ける学生もきつといはらずで、そういう学業以外の体験も学校教育の一つだと思つたのですよ。

河野 学生時代、外のテラスがとても気持ちよく友人と一緒に利用させていただきました。

木原 その後、総長が交代された後も学内保育園の設計させていただきました。同じ大学で二つの建物に携わることが出来たのは、ありがたいことですね。

討が必要で、どうしても時間がかかってしまいます。だから、経済的には大変なんです（笑）。期間は、だいたい設計に一年、工事に一年くらいですね。植栽ができない季節もあり、もう少し延びることもありますが。だから、施主には三年くらいかかると最初に言っていますが、大抵は驚かれません。

森本 工事にも時間をかけられて、造り込まれているのですね。

木原 外壁のコテ押さえがイメージ通りに施工されていなくて、何度もやり直してもらったこともあり。私が自分で押さええて、表情を示したりしてね。人の手で造られたものには味や深みがありますが、機械で造られたものには難しい。職人が気持ちを入れてやってくれた仕事に積み重なり、味のある空間になるんですよ。昨今、建築の仕事が減っていることに加えて簡単に施工できる建材が増えているため、職人が厳しい状態にあります。持つている技術をフルに活かす仕事が少ないから、腕の良い職人が育たない。社会の流れに逆らった考え方もかもしれませんが、技術を若い人に伝達し、育てることも必要だと考えています。ですから工期も必要となつてきます。

中澤 施主の感性や職人の技術を底上げすることで、少しでも良い建築の探求

上段：大阪大学カフェテリア「匠」（2005年）  
中段：南千里の家（1991年）  
下段：悠々亭（2000年）  
撮影  
上段：荒木公樹  
中段・下段：松村芳治



## 木原千利 作品年譜

<div> <div><div>【住宅建築】</div></div> <ul style="list-style-type: none"><li>1975 <b>向陽台の家</b><div>Kさんの住まい</div>新住宅1978.11</li> <li><b>河南町の家</b><div>住宅建築1979.12</div></li> <li><b>山手町の家・茶室</b><div>住宅建築1979.12</div></li> <li><b>大和高田の家</b><div>住宅建築1980.9</div></li> <li>1976 <b>目神山の家</b><div>新住宅1979.8 住宅建築1979.12</div></li> <li><b>姫路白浜の家</b><div>住宅建築1980.9</div></li> <li><b>宝塚の家</b><div>Fさんの家</div>新住宅1979.3 モダンリビング1979.3</li> <li>1978 <b>I邸</b><div>浅野邸</div>東北の家</li> <li>新住宅1982.8 住宅建築1979.12</li> <li>1979 <b>上住吉の家</b><div>新住宅1980.5</div></li> <li><b>一里山の家</b></li> <li><b>二番坂の家</b><div>新住宅1981.1</div></li> <li><b>松ヶ丘の家</b><div>住宅建築1980.9</div></li> <li>1980 <b>夙川の家</b><div>住宅建築1981.8</div></li> <li><b>御影の家</b><div>新住宅1983.2 住宅建築1981.8</div></li> <li><b>逆瀬台の家</b><div>hiroba1981.1</div></li> <li><b>HILL-SIDE 18</b><div>建築文化1981.7</div></li> <li>1981 <b>城東の家（諏訪の家）</b><div>新住宅1984.2 建築文化1983.12</div></li> <li>1982 <b>姫路白浜の家Ⅱ</b><div>中村邸</div>新住宅1981.8</li> <li>1983 <b>高安の家</b><div>朱雀の家</div>殿山の家Ⅰ</li> <li>1984 <b>黒崎邸</b><div>北落合の家</div>土岐邸</li> <li>新住宅1985.5</li> <li><b>赤穂の家</b><div>新住宅1986.7～12</div></li> <li><b>田中町の家</b><div>新住宅1986.9 住宅建築1992.6</div>日経アーキテクチャ1995.5</li> <li><b>神楽町の家</b><div>新住宅1985.9</div></li> <li>1985 <b>姫路 K 邸</b><div>殿山の家Ⅱ</div>百合野町の家</li> <li>新住宅1985.8</li> <li><b>鴨子ヶ原の家</b><div>上ヶ原の家</div>新住宅1986.1</li> <li>1986 <b>浪速の家</b><div>姫路岡町の家</div>住宅特集1987.2</li> <li><b>ローカル線のみえる家</b><div>新住宅1989.1 建築文化1987.12</div></li> <li>殿山の家Ⅲ</li> <li>1987 <b>姫路飾西の家</b><div>住宅建築1989.7</div></li> <li><b>霞町の家</b><div>新住宅1987.7</div></li> <li><b>井口・小杉邸</b><div>清里の森の山荘</div>新住宅1990.11</li> <li><b>学園前の家</b><div>新住宅1989.7 住宅建築1989.7</div></li> <li><b>甲陽園の家（翠陽園）</b><div>住宅特集1989.4</div></li> </ul> </div>	<div> <div><div>1988 <b>小林の家</b><div>大屋根の家</div>住宅建築1989.7 <li><b>武庫山の家</b><div>hiroba1990.3</div></li> <li>1989 <b>住吉山手の家</b><div>逆瀬台の家Ⅱ</div>東山町の家</li> <li>住宅特集1990.10</li> <li><b>玉田邸</b></li> <li><b>北島の家</b><div>傘の家（路地裏の家）</div>住宅特集1990.10 新住宅1991.4</li> <li>住宅建築1992.6・2007.9・2008.6</li> <li>モダンリビング1993.7</li> <li>ディテール1992夏季・冬季</li> <li><b>長岡京の家</b><div>新住宅1991.12</div></li> <li><b>ちりとりの家</b><div>住宅特集1992.6</div></li> <li>1991 <b>水無瀬の家</b><div>住宅特集1991.6 住宅建築1992.6</div>ディテール1991秋季・2006.冬季</li> <li>建築知識1992.1</li> <li><b>霞町の家Ⅱ</b></li> <li><b>南千里の家</b><div>住宅特集1992.1 婦人画報</div>住宅建築1992.6・2008.6</li> <li>1992 <b>双葉の家</b><div>住宅特集1992.10 住宅建築1994.3</div>家庭画報1995.7 ディテール1993.秋季 hiroba1994.1</li> <li><b>越前大野の家</b><div>1993 <b>懐風荘</b><div>住宅特集1993.7 建築文化1994.5</div>住宅建築1994.3・2008.6</div></li> <li>ディテール1993.秋季・1999.春季</li> <li>日経アーキテクチャ1993.11</li> <li>作品選集1997 DETAIL</li> <li><b>山手町の家Ⅱ</b><div>住宅建築1994.3 ディテール1999.春季</div></li> <li><b>城山町の住まい</b><div>住宅建築1994.3</div></li> <li><b>八尾の家</b><div>1994 <b>飾り段のある家</b><div>hiroba1995.1</div></div></li> <li><b>姫路の家</b><div>住宅特集1994.10 住宅建築2002.5</div>JA建築年鑑</li> <li><b>南春日丘の家</b><div>住宅特集1997.1 JA 建築年鑑</div></li> <li><b>東山町の家Ⅱ</b><div>日経アーキテクチャ1995.4</div></li> <li>1996 <b>小橋の家</b><div>住宅特集1998.5 JAPAM</div>MODERN meditative spaces</li> <li>hiroba1999.9</li> <li><b>石屋川の家</b><div>住宅建築1997.2</div></li> <li><b>伊勢の家</b><div>和風住宅2003</div></li> <li><b>光庭のある家</b><div>住宅特集1997.1 hiroba1997.1</div></li> <li><b>姫路余部の家</b><div>和歌山 城北の家</div>甲東園の家</li> <li>1997 <b>夙川泉町の家</b><div>ディテール1999.春季</div></li> <li><b>越木岩の家</b></li> <li><b>美原の家</b><div>住宅特集1998.5 JAPAN MODERN</div>ディテール1999.冬季 住宅建築別冊56</li> <li>the modern Japanese garden</li> <li>1998 <b>上野芝の家</b><div>住宅特集1999.7 住宅建築2002.4・5</div>和風住宅2006</li> <li>1999 <b>南船場の家</b><div>住宅特集2000.2</div></li> </div></div></div>	<div> <div><div>2000 <b>楊梅荘</b><div>住宅特集2000.7 和風住宅2002</div>悠々亭 <li>住宅特集2002.4 住宅建築2002.5</li> <li>和The New Zen Garden</li> <li>meditative spaces ディテール2005.夏季</li> <li>2002 <b>山王町の家</b><div>住宅特集2003.7 住宅建築2005.11</div>ギャラリーのある家</li> <li>住宅特集2005.4 住宅建築2005.8</li> <li>JA58 the modern japanese tea room</li> <li>1992 <b>山下内科医院</b><div>1992 <b>森の栖</b><div>住宅特集2006.11 住宅建築2007.9</div>不盡の舎</div></li> <li>住宅特集2007.8 住宅建築2007.9</li> <li>和楽 和モダン ディテール2011.夏季</li> <li>2007 <b>赤四手の家</b><div>住宅建築2007.9 和モダン</div>ディテール2011.夏季</li> <li>2008 <b>風游の家</b><div>住宅建築2010.4 和風住宅2009</div></li> <li>2009 <b>片流れの家</b><div>住宅建築2010.4</div>櫓の家</li> <li>住宅建築2010.4</li> <li><b>柁木の家</b><div>住宅建築2010.4 和モダンvol.3</div>建築人2012.8</li> <li>2011 <b>菊水の家</b><div>住宅特集2011.8 住宅建築2012.2</div>和風住宅2012</li> <li><b>針中野の家</b><div>和風住宅2013</div></li> <li>2012 <b>起雲居</b><div>住宅特集2012.9 和モダンvol.5</div></li> </div></div></div>	<div> <div><div>耳鼻咽喉科</div></div> <ul style="list-style-type: none"><li>1999 <b>三好耳鼻咽喉科</b><div>医院建築19</div></li> </ul> </div>
<div> <div><div>内科・小児科</div></div> <ul style="list-style-type: none"><li>1980 <b>木谷クリニック</b></li> <li>1989 <b>丸岡医院</b></li> <li>1990 <b>岡村医院</b></li> <li>1991 <b>西岡内科医院</b><div>医院建築12</div></li> <li>1992 <b>山下内科医院</b><div>医院建築14／hiroba1994.1</div></li> <li><b>山陽クリニック</b><div>医院建築14</div></li> <li><b>武医館</b></li> <li>1994 <b>まつぎ小児科</b><div>医院建築17</div></li> <li>1997 <b>金山医院</b></li> <li>2000 <b>浅野医院（増築）</b></li> <li>2001 <b>上田クリニック</b></li> <li>2001 <b>西田小児科</b></li> <li>2003 <b>中島医院</b><div>飯倉医院</div></li> </ul> </div>	<div> <div><div>外科・整形外科</div></div> <ul style="list-style-type: none"><li>1980 <b>森口整形外科</b><div>建築文化1980.11／AA1981.04</div></li> <li>1982 <b>高島外科</b><div>医院建築3</div></li> <li>1986 <b>田上整形外科</b><div>医院建築7</div></li> <li>1989 <b>海野医院</b></li> <li>1990 <b>浅野医院</b><div>医院建築12</div></li> <li>1992 <b>岡村医院</b><div>医院建築12</div></li> <li>2005 <b>岡村医院</b></li> </ul> </div>		
<div> <div><div>産婦人科</div></div> <ul style="list-style-type: none"><li>1984 <b>加藤産婦人科クリニック</b><div>医院建築7</div></li> <li>1986 <b>加藤産婦人科</b><div>医院建築7</div></li> <li><b>西川医院</b><div>医院建築7</div></li> <li><b>平野医院</b><div>医院建築7</div></li> <li>1988 <b>醍醐渡辺病医院</b><div>医院建築9</div></li> <li>1989 <b>山崎産婦人科医院</b><div>医院建築12</div></li> <li>1991 <b>平野医院改築工事</b></li> <li>1995 <b>西川医院増築工事</b></li> <li>1996 <b>鈴木産婦人科</b><div>医院建築17</div></li> <li>1997 <b>平松産婦人科クリニック</b></li> <li>1999 <b>平野医院増築工事</b></li> <li>2000 <b>粉川レディースクリニック</b><div>奥田産婦人科</div>医院建築21</li> <li>2001 <b>加藤産婦人科（増築）</b></li> <li>2002 <b>近藤産婦人科</b><div>つかはらレディースクリニック</div>医院建築23</li> <li>2005 <b>こいけレディースクリニック</b></li> <li>2009 <b>川村産婦人科医院</b></li> </ul> </div>	<div> <div><div>脳神経外科</div></div> <ul style="list-style-type: none"><li>2005 <b>宮本脳神経クリニック</b><div>hiroba2005.7</div></li> </ul> </div>		
<div> <div><div>眼科</div></div> <ul style="list-style-type: none"><li>1984 <b>池田眼科医院</b><div>医院建築7</div></li> <li>1996 <b>宮本眼科クリニック</b><div>医院建築9</div></li> <li>1998 <b>稲本眼科医院</b></li> <li>1999 <b>岩崎眼科</b></li> <li>2005 <b>波田眼科</b></li> </ul> </div>	<div> <div><div>【その他建築】</div></div> <ul style="list-style-type: none"><li>1978 <b>いずみ幼稚園</b><div>建築文化1979.10・1980.2</div></li> <li>1982 <b>欧風料理 しゃん亭</b><div>商店建築1982.11</div></li> <li>1986 <b>白ゆり幼稚園</b><div>新建築1986.9</div></li> <li>1988 <b>MUKOYAMA HOUSE</b><div>新住宅1990.1 建築知識1990.12</div></li> <li>1989 <b>甲陽幼稚園</b><div>建築文化1992.1</div></li> <li>1994 <b>済中製錬工業網干工場研究所棟</b></li> <li>1995 <b>アスタ・ラ・ビスタ新梅田</b></li> <li>1996 <b>TOM HOUSE</b></li> <li>1999 <b>神宗本町店改装</b></li> <li>2002 <b>甲陽幼稚園</b><div>新建築2003.2</div></li> <li>2003 <b>ゆとうや神鍋別館 輪楽の館</b><div>新建築2005.3 住宅建築2005.8</div>JA建築年鑑2005</li> <li>2004 <b>神宗淀屋橋店</b></li> <li>2005 <b>大阪大学（吹田）本部福利施設（カフェテリア「匠」）</b></li> <li>2007 <b>宗達</b><div>新建築2007.7</div></li> <li>2008 <b>大阪大学 たけのご保育園</b></li> </ul> </div>		

森本　　まだまだ建築をつくり続けていたと言う思いが湧いてこられているんで

森本　　休日は女房に連れられて、京都に行って町並みや茶室を見るという感じでしょうか。でも悪い病気を患うというね、現場に居たらほっとする。職人と直に話して、ド関西弁で「どや、あかんか」とか言っている時の方が楽しい（笑）。今は、自分の考えていた事は何なのか、先人はこんな事考えていたのかと思いつついています。

森本　　まだまだ建築をつくり続けていたと言っているのですか。

木原　　休日は女房に連れられて、京都に行って町並みや茶室を見るという感じでしょうか。でも悪い病気を患うというね、現場に居たらほっとする。職人と直に話して、ド関西弁で「どや、あかんか」とか言っている時の方が楽しい（笑）。今は、自分の考えていた事は何なのか、先人はこんな事考えていたのかと思いつついています。

木原　　先生が随分前に、経験をすればするほどに大胆になっていけるとおっしゃっていたのを覚えています。経験をすることによって、どこまで可能かという安全値の限度を、身体を介して把握することができるようになるということでしょうか？

木原　　歳を重ねることにより出てくる若さというものがあると思うのです。体の機能は衰えますが、ものをつくるという事に対して大胆さを持つようになるのは若さですよ。ものをつくりだすというのは精神的にもエネルギーのいることですからね。

森本　　仕事を除いた時間はどのように過ごされているのですか。

木原　　休日は女房に連れられて、京都に行って町並みや茶室を見るという感じでしょうか。でも悪い病気を患うというね、現場に居たらほっとする。職人と直に話して、ド関西弁で「どや、あかんか」とか言っている時の方が楽しい（笑）。今は、自分の考えていた事は何なのか、先人はこんな事考えていたのかと思いつついています。

聞き手

木下 光
関西大学環境都市工学部建築学科准教授 博士(工学)
1968年 福岡県生まれ
1992年 東京大学工学部建築学科卒業
1996年 東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻博士課程中退
2005年 日本建築学会論文奨励賞
市場と公共空間、屋並と瓦、敷地計画と都市住宅等に関して研究
共著に「アジア建築研究」(INAX出版)、「建築MAP京都」、「建築MAP大阪／神戸」(TOTO出版)等。

中澤 博史
1969年 大阪府生まれ
1992年 近畿大学理工学部建築学科卒業
1992年 株式会社大建設計
1998年 中澤建築設計事務所設立

森本 雅史
1974年 三重県生まれ
1998年 京都工芸繊維大学大学院(博士課程前期)修了
1998年 株式会社東畑建築事務所
2009年 森本雅史建築事務所設立
近畿大学工業高等専門学校 非常勤講師

北 聖志
1976年 大阪府生まれ
2001年 神戸大学大学院(博士課程前期)修了
2001年 二井清治建築研究所
2007年 THINK一級建築士事務所設立

河野 学
1979年 大阪府生まれ
2008年 大阪大学大学院(博士後期課程)修了
2008年 大阪大学大学院特任研究員
2009年 大阪府立工業高等専門学校講師

テープ起こし：松本和也・築田 良・辻村修太郎
(関西大学大学院理工学研究科)

本特集責任編集人
荒木 公樹
1971年 大阪府生まれ
1995年 神戸大学工学部建築学科卒業
1995年 建築環境研究所
2003年 空間計画設立

をされているのですね。

**経験をすれば大胆になる**

木下　先生が随分前に、経験をすればするほどに大胆になっていけるとおっしゃっていたのを覚えています。経験をすることによって、どこまで可能かという安全値の限度を、身体を介して把握することができるようになるということでしょうか？

木原　歳を重ねることにより出てくる若さというものがあると思うのです。体の機能は衰えますが、ものをつくるという事に対して大胆さを持つようになるのは若さですよ。ものをつくりだすというのは精神的にもエネルギーのいることですからね。

森本　仕事を除いた時間はどのように過ごされているのですか。

木原　休日は女房に連れられて、京都に行って町並みや茶室を見るという感じでしょうか。でも悪い病気を患うというね、現場に居たらほっとする。職人と直に話して、ド関西弁で「どや、あかんか」とか言っている時の方が楽しい（笑）。今は、自分の考えていた事は何なのか、先人はこんな事考えていたのかと思いつついています。

森本　　仕事を除いた時間はどのように過ごされているのですか。

木原　　新しいものを考え出そうとする時には、新しい建物を見ることがだけでは、生まれぬ気がするんですね。「古人の跡を求めず、古人の求めたるところを求めよ」と芭蕉が言っています。もっと自然や、心の中にあるものを熟成させながら、心に響くものを見た方が良い気がしますね。



不盡の舎（撮影：松村芳治）

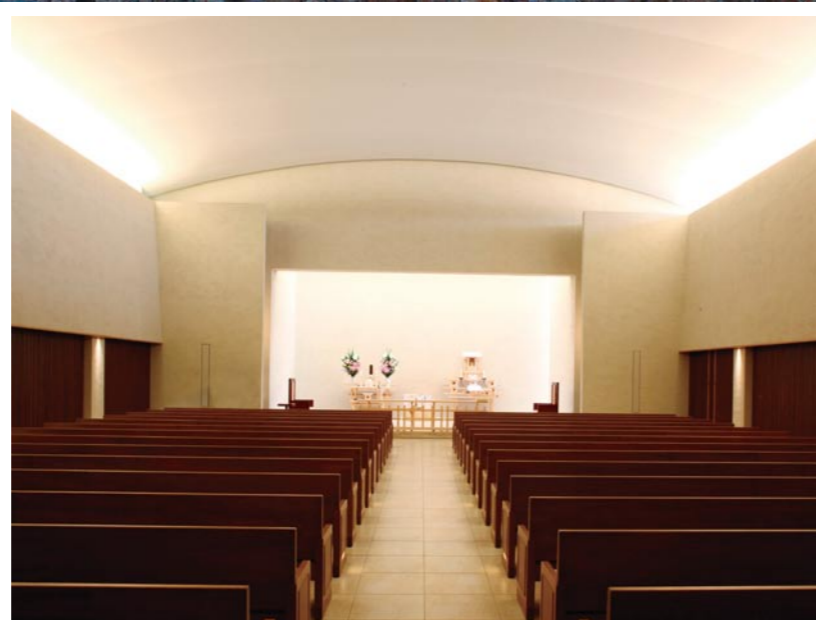




高齢者の一人一人が、懸命な時を重ねたひとつひとつの歴史を持っている。それぞれに長く頑張ってきた、人としての尊厳を大切にしたい。介護が必要だからここに移り住むのではなく、我が家のように愛着を抱きながら、年輪を刻む天然木のカウンターや手すりに触れ、廊下を渡る合間に長く差し込む冬の陽光を感じ、デッキ上の緑葉の揺らぎに時の流れを感じるすまいに暮らしてもらいたい。広縁でゆったりと日向ぼっこしながら、木々の成長に季節の移ろいを感じ、もう一度ゆっくりと自分の人生を振り返る、そんな安らぎの場を、私達は創りたかった。  
(内田善久・藤井英美・高恵純)

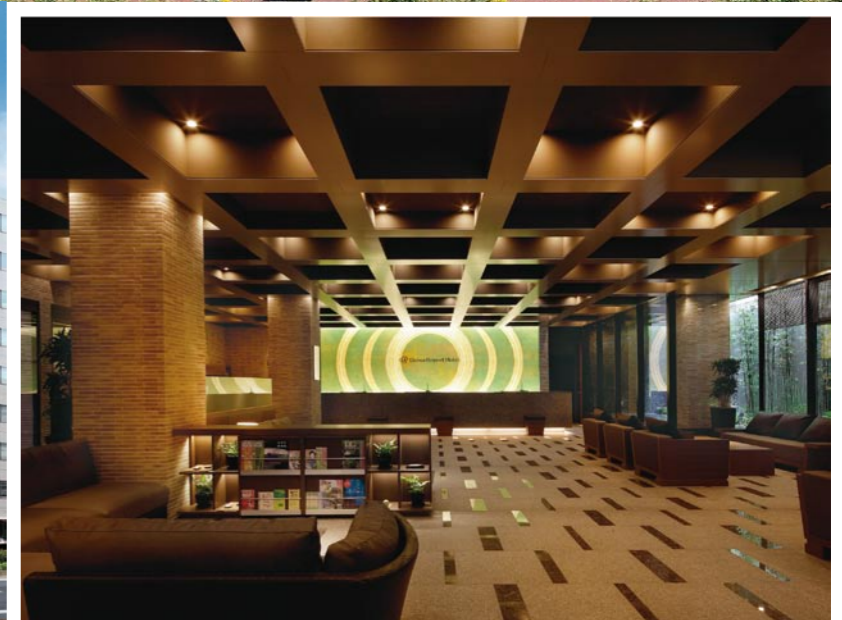
建築主：株式会社青野コーポレーション  
所在地：大阪府八尾市  
用途：サービス付き高齢者向け住宅  
竣工：2012.11  
構造規模：S造 4階建  
敷地面積：1493.31㎡  
建築面積：1989.71㎡  
延床面積：742.81㎡  
居室数：45室  
写真：稲田忠明





鈴鹿山脈と養老山地を望む丘陵地に里山の礼拝堂を計画した。聖域までの奥行を大切にするため、敷地の奥に建物を配置して、円弧のアプローチで前庭と建物を緩やかに結んだ。礼拝堂の左右の壁をわずかに倒し、布天井を曲面状に張ることで、光の回折と音の反響を最適に調整するとともに、空間の輪郭を曖昧にして意識を祭壇に集中させる。甲賀石の塀、尾鷲檜の軒天井、貝弁川の砂利を使用した洗い出しコンクリート、菰野石の雨落ちなど、近場で手に入る材料を活用し、身体の触れる部分にはできるだけ木を使用した。やわらかな自然光に包まれて、木の葉の揺れる音や虫の鳴き声が反響する祈りの空間を目指した。(足立裕己)

所在地：三重県いなべ市  
用途：礼拝堂  
竣工：2012.9  
構造規模：RC造  
一部S造  
敷地面積：2072.72㎡  
建築面積：955.36㎡  
延床面積：921.04㎡  
写真：古川泰三



京都の中心部、四条烏丸に位置する。高さ31mの街並みを形成する大底、縞をイメージした縦長窓で構成される立面など周辺環境に調和するファサードとした。外との視線が近い低層客室は坪庭をイメージしたニッチ(緩衝帯)を介して外と内とが緩やかに繋がり、大きな開口とプライバシー確保を両立させた。エントランスホールには格天井、濡れ縁、竹庭など京都らしいモチーフを展開。フロントバックに設置された掘木エリ子氏の創作和紙は日本独自の精神性である宇宙感を表現している。既存躯体の活用、LED照明など環境にも配慮した計画となっている。(大村昌聡・五ノ井浩二・吉田進一)

所在地：京都府京都市  
用途：ホテル  
竣工：2012.3  
構造規模：S造  
敷地面積：1,302.98㎡  
建築面積：951.00㎡  
延床面積：7,893.18㎡  
写真：SS大阪  
酒井文明





おおさか東線、JR長瀬駅の駅前ロータリーに面したJAの店舗である。近隣の支店を統合、金融に特化、地域に密着した典型的な都市型農協店舗である。敷地形状が変形のL字型であり、鋭角と鈍角がおり交った形状の店舗とし営業室の解放感を演出する為、奥に広がる扇型とした。駅プラットフォームからのJAロゴの視認性、カーテンウォールに映し出されるロータリーの植樹、バリアフリーの営業スペース、完全個室のコンサルティングルーム、車イス対応の全自動貸金庫システムを導入するなど、窓口対応のレベル向上と相まって地域一番の金融機関を目指す設計とした。

建築主：JA大阪中河内  
所在地：大阪府東大阪市  
用途：金融店舗  
竣工：2012.11  
構造規模：S造 2階建  
敷地面積：498.67㎡  
建築面積：386.43㎡  
延床面積：745.40㎡  
写真：砂田政樹

一九六〇年代末、日本興業銀行本店の設計を手がけるにあたって、七〇代後半を迎えていた村野藤吾は半世紀に及ぶ建築家としての自らの歩みを感じ深く回想したに違いない。というのも、東京丸の内と同じ場所に建っていた旧本店（一九三三年）は、若き修行時代に渡辺節の下で担当した建築だったからだ。一方で、村野は、一九六七年、折しも東京駅を挟んだ反対側の八重洲に、大阪ビルディング（八重洲口）を完成させたばかりだった。おそらく、興業本店には、前作で確かな手ごたえを得た村野のさらなる建築デザインの挑戦が意図されていたのだと思う。しかし、そこには難しい敷地条件が立ちはだかっていた。

与えられた敷地は、東側の長辺こそ一七〇mの長さをもつ街区の一边を占めるとはいえ、前面道路は一六mと狭く、南側の短辺は四三mしかない。さらに、敷地の北側部分は先細くなっており、北側の永代通りに接する敷地の幅は一六mに過ぎなかった。

この条件の下で完成した建物は、結果的に生まれた造形が目を引きもの、平面図と断面図から読み取る限り、正攻法と呼べるプロセスで設計が進められたことがわかる。すなわち、街区の東南の敷地幅を確保できる範囲に、幅二六・八m×長さ一〇三・四mの長方形平面をもつ事務スペースを確保し、周辺街区と調和させる。次に、北側の不整形な余地に機械室を垂直に一〇層分積み上げ、足元をキャンチレバー状に張り出すことにより、地上に植栽と水面を配した公開空地の庭園を生み出したのである。

こうして、東側は長さ約一五三m、高さ約五九mの垂直に屹立する鏡のような外壁

面となり、事務室部分の開口部は垂直性が強調されたスリット状にデザインされ、北側の一／三は開口部のない壁として扱われ、全体として彫刻的な造形にまとめられた。それにしても、この日本離れたシャープなファサードのデザインはどこから発想されたのだろうか。そのことを知る手がかりが、一九六五年に視察に訪れたニューヨークで目にしたCBS放送局（一九六四年）という完成したばかりの建物に関する、次のような村野の文章にうかがえる。

この言葉からは、そのまま興業本店のファサードのデザインにつながる考え方を読み取ることができると思う。驚くのは、村野が注目したCBS放送局について、設計者のエーロ・サーリネン（一九一〇～一九六一年）が次のように記していることだ。

## 記憶の建築 松隈 洋

日本興業銀行本店 1974年  
都市の街角をつくる



永代通り越しに見る北東からの全景



東側の足元まわりの表情

「壁兼用の柱がアコーディオン型に折れ、暗褐色の花崗岩を張りつめて、同じ幅の窓にも黒いガラスがはめられているので外観は黒一色に見えた。（中略）最近のものはほとんど同じ型のガラス張りである。ところがこの建物はそれとは逆で、横から見る窓よりも壁の強さが目立つ。であるからCBS放送局の出現で建築界はガラスのほらんにたいし、新しい建築美を示唆されることになったのである。事実、設計者はこの点を意識して創作したといわれるほ

「当初から、このビルのイメージはダークなものであった。ダークなものの方が、等静謐で威厳があり、この敷地に相応しい。（中略）永遠性、ということも表現のネライのひとつである。多くの近代建築は、どうも軽薄に見える。建物は歳月を経るにつれて美しくなるべきだ、ということも父エリエールから教えられたひとつであった。CBSの建物を鉄骨というより石造のような表現にしたい。（中略）建築の精神は無表情なカーテン・ウォールによって隠されてはならな

ど、これまでのような「鉄とガラスの箱」にたいして反省をうながしているようである。「村野藤吾『都市雑感』『朝日新聞』一九六六年一月一八日）

い。（中略）建築というものは、もともと力強く、はつきりとした意志を表わし、ひとびとに生きる喜びと誇りを持たせるものではないだろうか。」「a+u」一九八四年四月臨時増刊号「エーロ・サーリネン」

残念ながら、サーリネンは、こう記した直後に急逝し、完成を見ることはできなかった。だが、村野は彼のねらいを驚くほど正確に理解していたことがわかる。そして、村野はそこに独自のデザインを加えていくのである。それは、建物に近づいて目に入ってくる柱型と窓廻りに施されたディテールの処理に象徴される。マホガニーレッドの花崗岩の張られた柱型はわずかにくの字を描き、しかも中央の稜線には垂直性を強調する丸型の細いボーダーも埋め込まれた。さらに、柱の側面はR型に折り返され、奥に付けられたサッシュ面の端部を覆い隠すようになっていく。こうして、本磨きされた柱型は、影になって沈むガラス面を背景に、浮き立つように垂直に伸びて、輝く斬新なファサードを作り上げたのである。それは、サーリネンに連なるような、「無表情なカーテン・ウォール」を乗り越える新しい建築美の試みだった。

竣工から三八年、周囲では再開発が急激に進み、西側に隣接する建物もなくなり、すべてが建て替わろうとしている。そんな中であって、将来が危惧されるこの建物は孤高にも見える。しかし、凛としたその姿は、都市の街角を豊かに造形しようと精力を注いだ村野藤吾の最晩年の思いを今もなお発信している。

松隈 洋

京都工芸繊維大学教授、博士（工学）。一九五七年兵庫興業生まれ。一九八〇年京都大学卒業後、前川國男建築設計事務所に入所。二〇〇八年十月より現職。





「牧神、音楽を楽しむの図」の新旧レリーフを敷き並べ、俯瞰して見比べながら作業は進められた。

阪神高速環状線を車で走ると空港線の分岐点近くで視界が開け、中之島フエスティバルタワーが大きく目に入ってくる。旧フエスティバルホールが併設されていた新朝日ビルの建替えによるものだ。

土佐堀川に面したその南壁面には大阪人にとっては馴染み深い、旧ホールのシンボル「牧神、音楽を楽しむの図」のレリーフが、新しくなつて取り付けられている。太陽と月と星のもと、ギリシャ神話に登場する音楽好きの牧神が竖琴や笛を奏でる姿を描いたこのレリーフは、彫刻家の故建昌造氏らにより旧ビルの建設時にデザインされ、行動美術協会の彫刻部が信楽で制作した。

今回、建替えにあたり、故建昌氏の長男で彫刻家の建昌朔弥氏と彫刻家の鷹尾俊二氏の監修により、「牧神、音楽を楽しむの図」のレリーフは新しく創り直された。その新レリーフ制作と取付施工をおこなったのが、今回ご紹介する大塚オーミ陶業株式会社である。

先人の想いに新たな命を与え伝えのこす今回レリーフは同じ南壁面に取り付けられたが、旧ホールよりも二倍近く高い地上四〇mの、より広いスペースに配置された。レリーフの大きさも旧ホールに取り付けられていた物よりも約割大きくなり、パーツ数にして全体で約三五〇ピースにもおよんだ。一つのピースは最大で縦三〇cm×横四五cm×厚み三〇cmほどもあり、最大重量は四〇kgに到った。最も大きな牧神は縦約六、三

m、横約五、七mもあり、九〇ちかいピースで構成されている。厚みも旧レリーフよりも厚く、浮かして取りつけることから壁面からの出寸法は以前の倍近くにもなった。しかもこの様な巨大陶製レリーフをこれほどの高所に取り付けた前例がなく、意匠性、安全性、施工性を考慮して、取付工法と製作方法を同時に考えなければならなかった。結果、高耐震性を誇る超高層での躯体の動きに追随する乾式工法を前提に考え出されたのは、これらの巨大なピース間を空目地で数個を一体化したパネルとし、ステンレスの金物で壁面から一〇cm程浮かせて固定する工法だった。

レリーフの制作は、旧レリーフを同じスペースに置いて比較しながらすすめられた。壁面配置のスペースが広くなり、レリーフの位置や大きさを見直したことから、全くと同じモノを作ることは出来ないわけで建昌氏、鷹尾氏の監修のもと、現存するオリジナルの模型や旧レリーフに刻まれた表面テクスチャーのひとつひとつから、先人達の思いを丁寧に取り取りながら、新しく解釈し直し、新たな形にしてゆく作業が行われた。プロジェクト開始から取り付け完了まで約三年の二大プロジェクトとなった。それは、五〇年間の長きにわたり、土佐堀川に面して大阪の風景を創ってきた先人達の想いに新たな命を吹込み、一〇〇年先の未来に伝え遺してゆく作業でもあった。

ちなみに、旧レリーフの濃い青色は、火鉢に使われた釉薬の色であろうと言われて

いる。現代ほど物質的に豊かでは無かった当時、大量の釉薬が揃わず、唯一手に入りやすかったのが火鉢の釉薬ではなかったかということだ。新しいレリーフはそれら当時のエピソードと共にプロジェクトに関つた多くの人々の想いをくみとり伝えている。

孤高の技術で焼物に命を与える

今回、取材に大塚オーミ陶業の滋賀県信楽工場併設のショールームを訪れた。失礼を承知で正直に言うと、様々なオンリーワンの技術力を持ちながら、名画のレプリカ制作なども所詮はコピーじゃないかと、技術に対するある種の冷めた感情を持っていた。しかし今回、ショールーム訪問で私のその考えは一八〇度転換され、先人観は打ち砕かれた。

まず驚かされたのはショールーム最初の展示で、同社が手掛けた「キトラ古墳壁画等の複製」である。漆喰に滲み出た地下水の痕などは勿論のこと、漆喰の質感や剥離して石室から剥れかけた漆喰、石材との隙間などや、長い年月を経て漆喰表面ま



信楽工場ショールーム

で張出した植物の根までもがリアルに表現されていて、説明を受けた後もそれが陶板で出来ているとはにわかには信じ難い程であった。古墳の調査写真では漆喰面に深く彫られて見える白虎の図も、写真で撮られた際の光の加減がそう見えるのであつて、実際には微かな彫りであることや、漆喰表面に残る金箔の部分が他より極僅かに浮いていたのは、金箔が残ることによって現れた漆喰の痩せ加減の差であるなど、実際に古墳内に入り、目で見て手で触れた学者達の監修を受け、詳細なデータさえも漏らさず形としてディテールに落とし込んでいく。

担当者自らも積極的に考古学への見識を深める努力を惜しまなかったと聞く。結果再現された壁画は学術的価値は勿論のこと、当時の息吹をも感じさせてくれる。そこに込められた膨大な情報と、気の遠くなるような作業、そしてそれらを忠実に、詳細に、具現化する表現力と高い技術力に只々深い感嘆を憶えずにはいられなかった。

更にショールーム進むと、平山郁夫らの大型美術陶板が目に入る。最大寸法三〇〇×九〇〇×二一〇mmと、世界最大の大きさを誇る大塚オーミ陶業の美術陶板は、写真や絵画などを転写シートで焼付けする方法と、陶板に直接釉薬を用いて描写する方法がある。そこにあつた多くの画は、大塚オーミ陶業が持つ、二万色の釉薬で陶板に直接描写し、千度を超える炎で焼付け、半永久的な命を吹き込まれたものである。中でも私が特に強く心引かれたのは、月明りに浮かぶ枝垂れ桜を描いた、加山又造の「おぼろ」だった。この作品は陶板にする際、作家自らが修整を加えたことだが、「日月四季」では、原画を大型陶板技術

で二〇倍程度に拡大し制作された。拡大描写された陶板作品は完成度を上げるため、加山又造自らが何度も足を運び、陶板に直接書き加えるなどして完成させたとのエピソードもお聞きした。大塚オーミ陶業の大型美術陶板技術が、単なるレプリカを超え独自の新たな価値をつくり出している。

焼物の可能性を追求し、新たな価値を「焼き物だからこそ出来る、また逆に、焼き物でもこんなことが出来るのか」ということにもチャレンジしたかった」という話をうかがった。

一見、奇をてらつた違和感をも感じるその言葉の裏にあるのは、焼物の可能性を通し新しい表現をしていきたいとの焼物に対する深い愛情であると感じた。その想いは世界中の名画を陶板で再現、展示した世界で只二つの美術館、大塚国際美術館として実現する。中でもミケランジェロによるシステイナ礼拝堂の天井画を再現した原寸大のホールでは、陶板で再現することが非常に困難と言われた、複雑な曲面をもつパンドレル部分をも再現し、世界中から驚きと賞賛の声を得ている。

焼物が持つ半永久的な永続性によって、「人類の財産を先人達の想いと共に、未来に伝え遺していく」との想いと、そこから得たオンリーワンの技術が、「牧神、音楽を楽しむの図」のレリーフや、「キトラ古墳壁画等の複製」などのプロジェクトを成し遂げて来た。そして今、それらはアーティスト達とのコラボレーション、大塚オーミ陶業オリジナルデザインでの企画提案へと繋がって拡大し続けている。

釉薬や描写により様々な表現が可能となる大型陶板、彫刻や立体造形を可能とする



レリーフ制作風景



大塚国際美術館 システィナ・ホール (徳島)



## まちづくりは仕事づくり

なぜ、いま、まちづくりか

日本のように人口減少が顕著に進むような成熟社会では、新たに建てる機会は徐々に減少しており、建築士に求められる役割も自ずと変化してくる。自身の仕事を顧みても、新築以上に改修案件など既存建物の再活用に取り組み機会が増えている。そんな状況下で、建築士として何ができるのかを考えたときに、「まちづくり」という言葉が頭に浮かんだ。

建てる条件が整ってから仕事を受けるのではなく、建てるか否かという議論に建築士が関われるような状況をつくりたい。つまり、これからのまちをどうつくっていくのかという、より川上の土俵で勝負できるように自分を磨くことが、建築士としての私の望みであり、その舞台のひとつがまちづくり活動であると考えている。

### 建築士にできるまちづくり

ここで、昨今特に頻繁に使われるが非常にあいまいな「まちづくり」という言葉について共有したいと思う。そこで、私が考える「まちづくり」を象徴するキーワードをいくつか選んでみる。

#### 一 暮らし 二 協働 三 創造

まちづくりとは、より豊かな暮らしを求めて多様な人々が協働しながら創造的活動を行うプロセスと言えるだろう。

す学生と地域住民がワークショップにおいて、実際にまちづくり活動を経験・共有することに非常に大きな意義があると考えている。地域住民が減災を意識すると同時に、学生の教育にもつながる、まさに二石二鳥の試みである。

### 持続可能なまちづくり

先述の事例は、私が建築士として関わっているまちづくり活動のひとつであるが、その経験をもとに、このような活動を継続させるための秘訣を考えてみたい。

まちづくり活動は、仕事として依頼された場合を除けば、有志が集まり自主的にスタートさせることが多いだろう。先に挙げた事例も、地域の問題を共有する同志が集まり、議論するところからスタートした。議論を重ねるうちに様々なアイデアが飛び出し、それを実行に移しながら三年目を迎え、さらなる展開を模索中である。振り返ると、まちづくり活動には三つのステップがある。

#### 一 開始（初期） 二 拡大（成長期） 三 継続（成熟期）

初期段階で特に必要なのは、「明確な問題意識」「柔軟な発想力と迅速な行動力」であろう。問題を発見し、整理・分析し、その解決策を提示し実行に移すことが大切である。さらに活動範囲を拡げようとする成長期を迎えると、「協働できる同志」の必要性が大きくなる。最後に、活動を継続するのに必要なのは「資金計画」だろう。何をすることも経費が発生するので、それを如何に確保するかが重要になってくる。熱い想いから始めた活動をさらに発展・継続させるには、「仲間」「資金」の確保につい

では、建築士が担う役割とは如何なるものだろうか？そこでまず、建築士の職能について考えたい。建築士とは「住まう」「建てる」ことに携わる専門家であるが、同時に「考える」ことを得意とする。建築とは必然的に社会性を帯びており、その時代や地域で求められる要求を反映している。つまり、建築士には建築に関する専門的知識や技術を身に付けるだけではなく、時代性や地域性など様々な要求を的確に察知する鋭い「洞察力」と、それを適切に整理する「分析力」が求められる。

同時に、建築を実現し導くためには、多くの矛盾した要素を取りまとめる必要がある。予算・法規・建築主・社会が求める条件は相矛盾する場合も多く、そんな中でひとつの結論を導き出さなければならぬ。建築士にとってもうひとつ重要な資質として、様々な意志をひとつにまとめ上げる「統合力」を挙げることができる。

建築士にできるまちづくりとは、住人が豊かな暮らしを実現し、訪問者が楽しめるようなまちを目指して、多様な知識・情報・アイデアを集積・共有し、ソフト的・ハード的に実現に向かってみんなで協働できるコミュニケーションの場（プラットフォーム）を設計することであり、そこから多様な創造的活動が生み出されることになるのである。

て真剣に考える必要がある。

活動を始めて実感するのは、予想以上に労力と経費が掛かるということ。交通費、資料印刷代などの直接経費だけでも積み重なるが無視できない上、人件費などとても計上できないのが実情である。

一部の専門家を除けば、わが町のために自主的に活動している人が大多数とはいえ、自分の持ち出しで継続するのも難しい。活動を継続していくには、最低限必要な資金を確保する必要がある。つまり、人材確保と資金確保は表裏体なのである。

もちろん、資金があればまちづくりが必ずしも成功するわけではないが、いくら素晴らしい活動でも、資金がないと継続するのは難しい。先述の研究会は行政の活動助成金を使ってスタートした経緯があるが、継続するには助成金なしで資金確保する仕組みが必要である。特に働き盛りの建築士にとって、まちづくり活動をボランティアや建築士の営業活動の一環として考えている限り、持続可能性は見いだせないだろう。十分条件ではないが必要条件としての資金計画、活動を継続するのに必要な資金を如何に確保するかが今後の大きな課題である。

### まちづくりは仕事づくり

「減災まちづくり研究会」が発足し、産学官民連携で減災啓発活動を進めてきたが、そろそろ行政の助成金から自立するところと視野に入りたい。大学にとってはまちづくり活動が研究対象になり、行政にとっては地域の減災が進めば申し分ないだろう。しかし私たち建築士には、仕事との接点を見出す必要がある。

研究会では、まち全体と建物単体の減

具体的取組

二〇〇二年の事務所開設時よりぼんやりと意識していた「まちづくり」活動がここ数年でようやく形として見え始めた。ここでは私自身が関わっているまちづくり活動の事例を紹介し、「持続可能なまちづくり」を考える上でのきっかけとしたい。

今年で三年目を迎えるのは、地元東大阪で近畿大学建築学部（住環境計画・都市計画・建築企画専門の三人の教授とその学生たち）主導のもと、地元建築士や行政が地域住民と共に活動している「減災まちづくり研究会」。災害時にできるだけ被害を出さないよう日頃から備える「防災」に対し、「減災」とは災害時の被害を最小限にとどめようとする試みである。小学校や自治会での「減災ワークショップ」などの啓発活動を中心に、大学と連携した木造住宅耐震化の促進（学生が耐震診断調査に補助員として同行）など、様々な活動を地域住民を巻き込みながら行っている。

ここで、具体的に小学生を対象に行ったワークショップ事例を紹介したい。学生主導のもと、私たち地元建築士や行政職員が協働企画し、地元の小学生を中心に、自治会の方々にも参加頂き、地域散策と耐震実験を行った。

まず地域散策では、普段住み慣れた自分のまちを避難経路や避難場所に着目し災という二つの側面を意識して活動している。まち全体の減災に対してワークショップなどで報酬を得るにはまだ至っていないが、建物単体では木造住宅耐震化という面で間接的に業務に繋がっている。

まちづくり活動を通して地域の課題を発見し、それを地元住民含め多数の人々と共有し、協働して問題解決に取り組む。その過程で、私たち建築士の職能を活かす場を自らつくり出す。課題あるところにチャンスあり、既存の職域に捉われず、新しい仕事探しの場として考える。より良いまちをつくるのが建築士の仕事にも直接つながる。職能を活かしてそのような仕組みをデザインすることにより、建築士にできる持続可能なまちづくりを実現したい。

### 最後に

建築士の道を進んでいなければ何をしていたらどうか考えたときにふと思ひ浮かぶのは、三谷幸喜氏のような演出家。自身は表舞台に立たずとも、演者を通じて多くの観客に驚きと感動を与えることのできる職能に私は惹かれる。

私たち建築士は人間が豊かな生活を演ずるための舞台を設計しているのであり、主役である住まい手や使い手を最大限輝かせるために「演出する」のが仕事である。

冒頭で建築士に必要な資質として「洞察力」「分析力」「統合力」を挙げたが、より土俵の広いまちづくり活動においてこそ、その能力を最大限発揮できるのではないだろうか。建築士の役割としての「プラットフォームづくり」からさらに歩を進み、そのプラットフォームを使って地域社会全体を演出したい。もちろん主役は地域住民である。

## 仙入 洋

ながら、減災の観点から見直した。最初は「自分のまちのことはよくわかってるよ」との意見も出ていた。しかし、学生や建築士と共に歩くことにより、見通しの悪い入り組んだ通りや極端に狭い街路の危険性や、お寺境内の広い敷地の避難場所としての可能性など、地元住民に新しい気づきが芽生えた。そして、「今までそんな目で見ていなかったので、非常に有意義だった」との意見を多数頂いた。

教室に戻り、それらの気づきについてみんなで整理・共有し、問題点を明らかにした上で、議論しながら解決案を模索した。そのアイデアをチームごとに整理して発表することにより、参加者全員が自分のまちの減災意識を共有できた。

その後のストロークハウスでの耐震実験では、まずストロークハウスで作るといふものづくりの楽しさを共有した上で、地震が起きたという想定のもと、筋交いを外して耐震比較実験を行うなど、ゲーム性を付加することにより、木造住宅の耐震化を少しでも身近に感じてくれた。

本企画では私たち建築士はサポート役に徹した。地域の問題の発見・気づきを住民に促し、それを整理・分析した上で解決案を住民自身が模索し、実際に行動に移す手伝いをするのがまちづくりにおける建築士の役割だと思う。さらに、建築を志



P25 右 地域散策する子どもたちと学生  
左 ストロークハウスで耐震実験

仙入 洋  
東大阪生まれ  
一九七一年 京都大学大学院工学研究科建築学専攻修了  
一九七七年 東畑建築事務所勤務  
二〇〇二年 遊園設計設立  
二〇一〇年 大阪産大非常勤講師  
減災まちづくり研究会発足



# 梅田阪急ビル

保存・再生への取り組み イメージの継承と発展

## 一階聡之

### 一階聡之

1987年 京都大学卒業  
1989年 京都大学大学院  
工学研究科修士修了  
1989年 日建設計入社  
2012年 日建設計 設計部門  
設計部長



伊東忠太のガラスモザイク



装飾看板 丸窓



アーチ 水平庇 田ノ字窓



旧百貨店内の装飾



旧グランドコンコース



旧グランドコンコースの大時計

### 1. 阪急ビルディング

梅田のまさに玄関口に位置していた旧「阪急ビルディング」は、日本初のターミナルデパートである阪急百貨店のフラッグシップショップとして、1929年の第I期完成時から第IX期にあたる阪急グランドビルの完成に至るまで、常に社会的な要請に応えるべく増改築を重ねられた建物であった。

この建物は、1966年から1973年にかけて大規模に行われた梅田駅移設拡張工事までは、阪急梅田駅として利用されていた歴史をもつものである。駅のコンコースの正面玄関部分には伊東忠太設計によるヴォールト天井を持つ独特の空間が存在していた。

外部意匠においては、水平庇や田の字窓、基壇部のアーチに丸窓・塔と、それぞれの時代を反映したデザイン要素が絶妙なバランスで織り込まれたモザイクのような建物であった。

梅田新駅完成後、かつての駅のホームであった場所には、「グランドコンコース」と呼ばれる壮大な都市回廊を持つに至っている。

時代の先端を常に開拓し、その高級感から憧れの想いをもたせてくれた阪急百貨店の店内装飾もさらに秀逸であり、これらすべてが、人々の心に残る「阪急」らしさを醸し出していた。



昭和初期の阪急ビルディング

### 2. 守り神としての意匠

伊東忠太は、明治から昭和初期にかけて活躍した建築家・建築史家である。日本建築のルーツを訪ねるため、アジアへの留学を選び、中国からインド・トルコを旅したこともあり、東京・築地本願寺を設計したことでも知られる。

「Architecture」が「造家」と訳されていたこの時代において、「造家」では芸術的な意味合いが抜けているので「建築」と訳すべきであると提唱したことも功績の一つとされており、建築界で、はじめて文化勲章を受章した人物でもある。

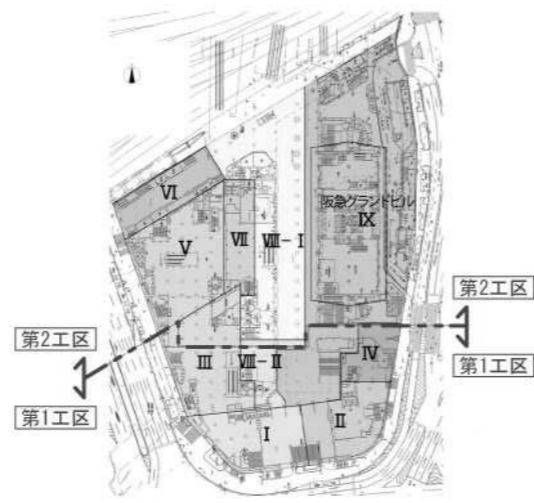
ヴォールト天井をもつコンコース部分の意匠設計は忠太によるものである。この空間を印象付ける東西に配置されたガラスモザイク壁画は、中国の四神思想に基づいたという空想の動物「龍」「天馬」「獅子」「鳳凰」をモチーフとして、「太陽に住む八咫鳥」と「月に住む白兔」があしらわれており、設計者としては、この阪急ビルディングの守り神を意識したものであるとの印象を強く受けたものである。



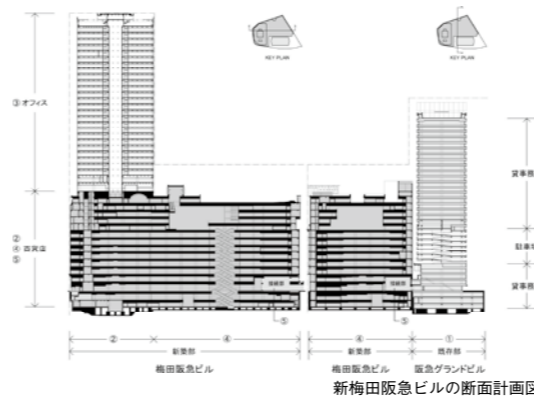
伊東忠太によるかつてのコンコース（現存せず）

### 3. 梅田阪急ビル建替計画

建物の老朽化及び狭隘化と同時に、梅田界隈の開発計画が進むこともあり、2004年、都市再生特別措置法を適用しつつ、全面的に建替える事業計画を進めることとなったものである。本計画は、この地で、この「阪急百貨店」の旗艦店である本店の営業を継続しつつ、「阪急ビルディング（現:梅田阪急ビル）」を建替える計画であり、2012年9月末に竣工したものである。計画にあたっての最重要目標の一つは、もちろん、この「阪急らしさ」の継承・発展であった。



旧梅田阪急ビルの期別図（ローマ数字は概ね建設順序）



新梅田阪急ビルの断面計画図

阪急百貨店本店のこの地での営業継続のために、工事は南北2工区に分けた段階施工方式となった。工事着手は2006年であり、約6年の歳月を経て完成した延床面積約330,000㎡、最高高さ186.95m、地上41階地下3階の大阪梅田の超大規模プロジェクトである。

### 4. 保存と再生

#### (1) コンコースと壁画

伊東忠太のコンコースを現存する位置でそのまま保存する検討も行ったが、建築計画上の制約が非常に大きく、また空間全体にわたって経年による損傷も多く見受けられたため、様々な検討を経て、意匠を13階のレストランへと移設する方針となった。

再生は、空間の全体像を記録する作業から始めた。3次元レーザーによる計測・記録を行い、新たな場所に再現することを試みた。壁画は、1辺2cmのガラスモザイクを一枚一枚剥ぎ取るという緻密な作業から始め、欠損部分は時代や色調、表面加工から米国のメーカーを特定し、当時と同じ形状に加工し修復をおこなった。剥ぎ取ったガラスモザイクはクリーニングし、ひとつずつ正確な位置に戻すという作業を繰り返して復元した。ベースの部分は中金箔という錫箔をいぶしたものであり、創建当時の輝きを永く後世に伝えるべく本物の金箔を使用し再現したものである。シャンデリアは吊り金物のサイズ調整のみを行い再利用し、飾り金物や釘隠しの金物なども可能な限り当時のものを再生している。ただし、天井の唐草模様のレリーフやモザイク壁画の外枠部分の現物再生は断念し、型取りを行い、複製し再現したものである。



13階のレストランへと再生されたコンコース

#### (2) 外部意匠

人々の心に刻まれた「阪急」というイメージを、新梅田阪急ビルにおいても継承発展的に表現している。

クラシックな低層部は、現代風にリデザインした基壇部のアーチ、丸窓・塔、水平庇や絶妙な色合いのモザイク風タイルにより「歴史」や「変わらない想い」を表現し、モダンな高層部は、ガラスとコンクリートという現代的な素材感で堅基調に表現することで、「未来」や「進化」を印象づけることを狙った。全体として、このデザインの対比・融合により、「阪急」の継承・成長・発展、を意味し、さらには、「梅田らしさ」を表現したものである。



丸小窓のスタンドガラスをポイントに再生した豊かな外部景観

#### (3) グランドコンコース

1日20万人が往来する都市の大動脈であるグランドコンコースも梅田阪急ビルには無くてはならない空間である。慣れ親しんだかつての空間の雰囲気をもつままに、モカクリームの石壁と硫化イブシ風の建具による素材感が醸し出すハーモニーと形態デザインにより、次代を切り開いていく「阪急」を日々体験できる空間とすることを意図したものである。



新たに再生したグランドコンコース

#### (4) 店内装飾

昭和初期に建設された部分の基礎に使用されていた松杭もメモリアル的に展示した。コンコースにあった大時計や大理石のレリーフなども、店内に散りばめ、当時の記憶と懐かしさを、そこはかとなく感じさせる空間意匠を百貨店に施したものである。



松杭とレリーフ

#### 5. おわりに

設計者としてこのような歴史的なプロジェクトに係ることが出来、事業主他関係者へは感謝の言葉より他に見当たらない。次の100年、否千年の間、人々に愛され続けることを望むものである。



撤去工事前の梅田阪急ビル



撤去工事前の梅田阪急ビル南側正面



新グランドコンコース1階平面図



新梅田阪急ビル 南側全景



新梅田阪急ビル 西側全景



龍 天馬 八咫鳥



獅子 鳳凰 白兔



## 建築設計事務所

あけましておめでとうございます

### 宇澤善一郎

ア ト リ エ ・ U  
和泉市池田下町1-6-9

人、社会、地球環境との共生

### 岩永裕人

株式会社 アール・アイ・エー  
大阪市北区堂山町1-5  
(大阪合同ビル)

### 金峰鐘大

株式会社 I A O 竹田設計  
大阪市西区西本町1-4-1

希望は星に、足は大地に

### 瀬尾忠治

株式会社 阿波設計事務所  
大阪市浪速区元町2-2-12

社会と環境の調和を計る都市創造企業

### 丸山利幸

株式会社 石本建築事務所大阪支所  
大阪市中央区南本町2-6-12  
(サンマリオンNBFタワー)

### 川邊浩藏

株式会社 藏建築設計事務所  
大阪市西区立売堀1-7-18

謹んで新春の祝詞を申し上げます

### 湯浅安彦

株式会社 小西設計  
大阪市西区立売堀1-12-16

### 寺内義雄

サンヨーリフォーム株式会社  
大阪市西区西本町1-4-1  
(オリックス本町ビル7F)

### 宮川明夫

株式会社 総合積算  
大阪市北区東天満1-11-19

### 菅野尚教

株式会社 大建設大阪事務所  
大阪市西区京町堀1-13-20

### 岡本慶一

株式会社 日建設計  
大阪市中央区高麗橋4-6-2

### 佐野正一

株式会社 安井建築設計事務所  
大阪市中央区島町2-4-7

## 建設会社

# 大成建設

For a Lively World

常務執行役員関西支店長 山田文啓  
http://www.taisei.co.jp/

# 竹中工務店

取締役社長 竹中統一

大阪本店 大阪市中央区本町4-1-13  
TEL06(6252)1201  
東京本店 東京都江東区新砂1-1-1  
TEL03(6810)5000

時をつくる ところで創る

# 大林組

取締役社長 白石達  
専務執行役員 長谷川博  
大阪本店長

本社：東京都港区港南2-15-2 電話03(5769)1111  
大阪本店：大阪市中央区北浜東4-33 電話06(6946)4400

100年をつくる会社

# 鹿島

専務執行役員 支店長 三柴利雄

関西支店：大阪市中央区城見2丁目2番22号 電話06(6946)3311  
本社：東京都港区元赤坂1丁目3番1号 電話03(5544)1111

## 謹賀新年 2013

## 大阪府建築士会役員

改革の断行から社会貢献へ

### 宮崎八郎

宮崎建築設計事務所  
大阪市中央区西心齋橋1-1-11  
(心齋橋西ビル8F)

### 柳川陽文

株式会社 小河建築設計事務所  
大阪市中央区博労町1-7-16  
(CSTビル)

### 岡本森廣

全日本コンサルタント株式会社  
大阪市浪速区港町1-4-38

### 澤本侃一郎

株式会社 K&S総合企画  
大阪市西区京町堀2-2-1  
(スマタビル10F)

### 松村慶三

浦辺設計  
大阪市中央区北浜2-1-26  
(北浜松岡ビル4F)

### 米倉信太郎

株式会社 ZEN建築構造事務所  
大阪市西区南堀江4-17-18  
(原田ビル206号室)

今年は、変化の一年にしたい

### 上田茂久

株式会社 上田茂久・建築設計工房  
大阪市北区中津1-12-3

安心・安全な住まい環境の創造

### 西邦弘

株式会社 キンキ総合設計  
大阪市中央区谷町4-5-9  
(大阪屋谷町アークビル4F)

### 中伊佐男

一般財団法人 大阪建築防災センター  
大阪市中央区谷町3-1-17

For the best life: 総合住生活提案企業

### 濱田徹

鹿島建設株式会社  
大阪市中央区城見2-2-22

### 田中義久

株式会社 田中都市建築事務所  
大阪市中央区本町橋5-14  
(OZ本町橋BLD902)

### 小嶋和平

三洋ホームズ株式会社  
大阪市西区西本町1-4-1

皆様にとってよき年でありますように

### 井上まるみ

住まいの研究室  
大阪市北区鶴野町4-11  
(朝日プラザ梅田1103)

環境に配慮した企業活動で社会に貢献します

### 阿部弘明

株式会社 空間デザイン  
吹田市垂水町3-29-2

おかげさまで30周年

### 徳岡浩二

株式会社 徳岡設計  
大阪市北区西天満6-3-11-205  
大阪・東京・兵庫・滋賀・九州

平平安安 深深謝謝

### 横田友行

株式会社 能勢建築構造研究所  
大阪市中央区瓦町3-3-7  
(瓦町KTビル)

### 森田茂夫

アトリエクリオ  
神戸市灘区摩耶海岸通1-3-22-601

### 芳村隆史

株式会社 碧-AO-建築事務所  
大阪市阿倍野区丸山通1-3-44

### 米井寛

株式会社 東畑建築事務所  
大阪市中央区伏見町4-4-10



断熱・吸音・耐火材料

# ロックウール工業会

理事長 矢野 邦彦

〒111-0052 東京都台東区柳橋2-21-13 東洋ビル4F  
TEL.(03)5835-2569  
FAX.(03)5835-2570  
ホームページ: <http://www.rwa.gr.jp>

## 一般社団法人 大阪電業協会

会長 藤田 訓彦

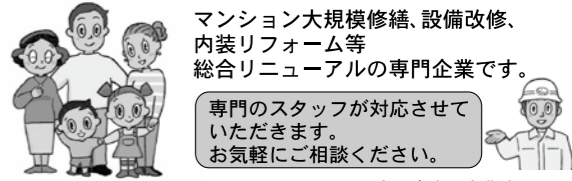
大阪市北区西天満5丁目6番10号 富田町パークビル  
電話(06)6363-4077(代) ファックス(06)6363-4079

## 大阪ガス株式会社 リビング事業部 大阪リビング営業部

大阪市西区千代崎3丁目南2-37

TEL(06)6586-3241  
FAX(06)6586-3259

マンション大規模修繕は **建装工業** へお任せください。




マンション大規模修繕、設備改修、内装リフォーム等 総合リニューアルの専門企業です。

専門のスタッフが対応させていただきます。お気軽にご相談ください。

〒564-0051 大阪府吹田市豊津町18-38  
**建装工業株式会社 関西支店** TEL.06-6821-3611

本社:東京 支店:東北、関東、千葉、横浜、中部 営業所:札幌、青森、福島、仙台、茨城、福岡



住まいに、人に、安心を。  
**住宅情報相談センター**  
住宅相談・住宅情報提供・各種研修事業  
住宅展示場の企画・運営  
住宅性能評価機関・住宅保険取扱機関

### 一般財団法人大阪住宅センター

理事長 立成 良三

大阪市中央区南船場四丁目4番3号  
心齋橋東急ビル4階  
事務局 06-6253-0071  
<http://www.osaka-jutaku.or.jp>

建築物の質の向上と安全性の確保に貢献



一般財団法人 **日本建築総合試験所**

理事長 辻 文三

〒565-0873 吹田市藤白台 5-8-1  
TEL 06-6872-0391 FAX 06-6872-0784  
<http://www.gbrc.or.jp>



Link to Good Living

プロジェクト営業部 関西支店 支店長  
**藤島 二郎**

株式会社 LIXIL 営業カンパニー  
大阪府大阪市西区新町1-7-1 〒550-0013  
LIXIL四ツ橋ビル  
TEL:(06)6539-3509 FAX:(06)6539-3503  
<http://www.lixil.co.jp/>

快適な暮らしのために  
**太陽光発電とLED照明を  
推進しています**

電気設備設計施工  
**CHOYO 朝陽電気株式会社**

<http://www.choyo.co.jp> 〒530-0005 大阪市北区中之島3丁目2-4  
TEL 06(6385)1361 FAX 06(6385)1050

## 社団法人 大阪空気調和衛生工業協会

会長 大平 哲也

〒541-0052 大阪市中央区安土町1-6-14 朝日生命辰野ビル2階  
TEL 06(6271)0175 FAX 06(6271)0177

## 社団法人 日本建築材料協会

会長 藤井 實

本部 〒550-0002 大阪市西区江戸堀1-4-23 撞木橋ビル4階  
電話06(6443)0345(代)  
FAX06(6443)0348  
支部 関東・中部・中国・四国・九州  
<http://www.kenzai.or.jp/>

## ナイスジョイント

ステンレス製=給水・給湯・冷温水配管用管継手

ISO9001  
ISO14001  
認証取得

### オーエヌ工業株式会社

代表取締役社長 中村 政弘

■本社・工場 〒708-0015 岡山県津山市神戸466  
TEL(0868)28-0171(代) FAX(0868)28-4254

## チヨダセッコウボード チヨダウーテ株式会社

代表取締役 平田 晴久

本社/三重県四日市市住吉町15-2 ☎0593-63-5555  
大阪支店/大阪市西区南堀江2-2-6 ケンザイビル ☎06-6541-7735  
U R L <http://www.chiyoda-ute.co.jp>

学校法人 福田学園



## OCT 大阪工業技術専門学校

## OHSU 大阪保健医療大学

## OCR 大阪リハビリテーション専門学校

理事長 福田 益和

〒530-0043 大阪市北区天満1-9-27  
TEL 06-6352-0093 FAX 06-6352-5995  
URL <http://www.fukuda.ac.jp>

1級建築士・2級建築士・1級建築施工管理技士・2級建築施工管理技士  
宅地建物取引主任者・インテリアコーディネーター

### 建築関連資格取得スクール 総合資格学院

(株)総合資格

関西本部 本部長 石川 琢也

〒530-0015 大阪市北区中崎西2-4-43 山本ビル梅田6F  
TEL:06-6374-8911 FAX:06-6374-8944  
梅田校 TEL:06-6374-1411 新大阪校 TEL:06-6101-1911  
京橋校 TEL:06-6882-8211 なんば校 TEL:06-6648-5511  
高槻校 TEL:072-686-6711 堺校 TEL:072-222-9311

### 低炭素化の防水仕様で環境へ貢献

■ピロウエルドE新熱工法 ■シグマートE




## 日新工業株式会社

大阪支店 支店長 北村 克己

大阪支店: 〒550-0013 大阪府大阪市西区新町1-12-22  
TEL 06-6533-3191(代表)

本社: 〒120-0025 東京都足立区千住東2-23-4  
TEL 03-3882-2424(代表)

Hyper-MEGA, Hyper-ストレート, HBM工法  
NAKS, RODEX工法



## 日本コンクリート工業株式会社

本社 〒108-0075 東京都港区港南1丁目8番27号(日新ビル)  
基礎事業部 ☎(03)5462-1030 FAX(03)5462-1049  
大阪支店 〒541-0059 大阪府中央区博労町4-5-9(本町太平ビル)  
☎(06)4963-6911 FAX(06)4963-6916  
名古屋支店 〒450-0003 名古屋市中村区名駅南1-11-5(エステート名古屋ビル)  
☎(052)581-0666 FAX(052)541-2530  
四国支店 〒760-0022 香川県高松市西内町4-6(神原ビル)  
☎(087)897-2984 FAX(087)897-2986

## 3D レンティキュラー

お好みの写真やイラストを  
3D 画像に!

飛び出す感や、奥行き感が楽しい  
3D 画像が作れます。  
1枚だけのポスターや POP から  
DM まで用途もいろいろ。

カラー封筒印刷・バリアブル印刷も  
大好評稼働中です!



## CHUSSA

中和印刷紙器株式会社

〒640-8225 和歌山市久保丁4丁目53  
TEL.(073)431-4411 FAX.(073)431-8188

ブログ・ツイッターも更新

一企画から印刷までトータルにクリエイトします

## 株式会社 日報印刷

代表取締役 井上 務

〒550-0004 大阪市西区靱本町1-16-7 TEL.(06)6445-6888



エレベーター・ダムウェーター  
福祉機器

本社: 大阪市西区京町堀1-12-20 TEL: 0120-07-0570  
<http://www.kumalift.co.jp/>



石川工場

夢のレンガを積みあげよう

## 都築業株式会社

大阪市北区西天満2-8-1 大江ビル  
☎(06)6367-0389 FAX(06)6367-5567  
[miyakoyogyo@md.newweb.ne.jp](mailto:miyakoyogyo@md.newweb.ne.jp)



# INFORMATION

## Sponsorship

建築士会からのお知らせ

### 平成24年度 建築士定期講習

2/28、3/22 CPD各6単位

建築士事務所に所属の一級・二級・木造建築士で、平成21年度に建築士定期講習を受講された方、及び平成21年度以前に建築士試験に合格後、建築士定期講習を未受講の方は、平成24年度中（平成25年3月末まで）に必ず受講してください。

#### ■日時・会場

日程 2月28日(木)、3月22日(金)  
時間 9:30～17:30(受付は9時より)  
会場 2月28日(木) 大阪府商工会館 定員200名  
3月22日(金) 大阪国際会議場 定員300名  
詳細 <http://www.aba-osakafu.or.jp/pdf/20120820.pdf>

#### ■申込締切日・受講料

2月28日(木)開催分:  
1月30日(水)申込書必着  
3月22日(金)開催分:  
2月28日(木)申込書必着

※大阪での申込受付は郵送のみです。

必ず簡易書留郵便にてご送付ください。  
※定員に達し次第、受付を終了します。  
※受講料 12,900円(消費税含)

#### ■申込先・申込書配布場所

大阪府建築士会事務局  
大阪府建築士事務所協会事務局  
※申込締切日まで営業時間内に随時配布(無料)。  
※定員に達し次第、配布を終了します。  
※申込書は(財)建築技術教育普及センターのホームページからダウンロードも可能です。  
[http://www.jaeic.or.jp/k\\_teiki-form\\_download\\_h24.htm](http://www.jaeic.or.jp/k_teiki-form_download_h24.htm)

### 建築士法にもとづく「建築技術講習会」平成24年度 第5回 ～省エネ～

1/25 CPD3単位〔統括〕

建築士法第22条の4第5項に基づき、平成24年度第5回目の建築技術講習会を実施します。本講習会は年6回のシリーズで、効率よく広範囲の学習をしていただけるよう、各回の内容が異なります。

日時 1月25日(金)13:30～16:15

会場 大阪府建築健康会館6階ホール  
大阪市中央区和泉町2-1-11

内容 ・バイオマス利用と事例紹介  
・「環境」についての届出、報告と低炭素化の促進

定員 150名(定員に達し次第締切)

受講料 建築士会会員3,000円  
一般5,000円(テキスト代含)

### 平成24年度既存木造住宅の耐震診断・改修講習会《一般診断法講習》

1/31・2/21 CPD5単位

日程 1月31日(木)、2月21日(木)  
時間 11:00～16:30  
会場 いずれも大阪YMCA国際文化センター2階ホール  
定員 いずれも200名(先着順かつ希望順の申込受付・定員になり次第締切)  
受講料 会員5,000円 会員外9,000円  
テキスト代 7,000円(2012年改訂版木造住宅の耐震診断と補強方法)

### 建築士のためのお茶会勉強会

1/16・1/22

建築士の礼儀作法のひとつとして、お茶の作法を学ぶため毎月開催している勉強会です。

日時 1月16日(水)、1月22日(火)  
18:30～20:30頃まで  
(原則毎月第3水曜日及び第4火曜日)  
費用 年会費6,000円+1回2,500円  
(年会費はキャンセル時の水屋料などのため。但し途中入会の場合の年会費は年度末までの月数×500円となります。)  
先生 藤井宗照(そうき)先生

### 建築士の会 北河内～大阪府域における精神医療の中心的病院施設～大阪府立精神医療センター見学会

2/9 CPD2単位

建築士の会 北河内では、この度、大阪府立精神医療センター、大阪ハートケアパートナーズ及び安井建築設計事務所、戸田建設のご協力のもと、平成24年度に完成予定の「大阪府立精神医療センター」の見学会を行います。  
日時 2月9日(土) 13:00～16:30  
集合場所 京阪「宮之阪駅」改札出口前  
募集 40名(申込先着順)  
参加費 1,000円  
※懇親会参加費 別途3,500円程度必要  
行程 13:15～ 百濟寺跡見学  
14:00～16:30 精神医療センター見学  
17:00～19:00 懇親会  
※参加証は実施1週間前に出状予定です。

### 第1回 アジア茶会

～トルコチャイを楽しむ留学生に聞くトルコの暮らし～

2/16 CPD3単位

今回は、トルコ・インド・イランのチャイと茶葉子を選びました。また、トルコからの留学生を招き、お茶を楽しみながらの参加者も交えた懇談の場をご用意しています。  
日時 2月16日(土) 14:00～17:00  
受付 13:30～開始  
会場 キッチンハウス  
参加費 1,500円(お茶・茶葉子代・資料代含む)  
懇親会は別料金  
定員 30名

※懇親会(参加費は未定)は、トルコ料理とベリーダンスを楽しみながら交流したいと思います。

### 建築士の会 北摂金沢の現代建築と歴史的街並みをめぐる2日間

2/23～2/24 CPD7単位(予定)

今回は、「建築士の会 北摂」設立10周年記念事業として、1泊2日の研修旅行を企画いたしました。

日程 2月23日(土)～2月24日(日)  
集合 新大阪駅周辺と千里中央駅周辺  
スケジュール

2/23 7:30 新大阪駅集合・出発～千里中央～金沢へ  
12:00 金沢市内にて昼食  
13:00頃～ 鈴木大拙館、金沢21世紀美術館見学  
15:00頃～ 観光ガイドと歴史的街並み散策～宿泊  
2/24 9:30頃～ 観光ガイドと歴史的街並み散策

13:00 金沢市内出発  
17:30頃 大阪着～解散  
定員 35名(申込先着順)  
参加費 会員19,500円 会員外21,000円  
申込締切 2月8日(金)  
申込方法 所定の申込書に必要事項をご記入のうえお申込ください。

### 60周年記念シンポジウム「くらしのエネルギーを考える」～創るエネルギーと減らすエネルギーシンポジウム～

3/16 CPD3単位

将来も安心して暮らせる街と建物について、これからの「創る」と「減らす」について、みんなで考えてみませんか?  
日時 3月16日(土) 10:00～16:15  
会場 大阪府商工会館7階講堂  
大阪市中央区南本町4丁目3-6  
(大阪市営地下鉄本町駅17番出口)

プログラム  
13:00～ 基調講演 藤村靖之(非電化工房、日本大学工学部教授)  
パネルディスカッション 下田吉之(大阪大学大学院教授)  
藤村靖之 甲斐徹郎(株式会社ネット代表取締役)  
鈴木重男(岩手県葛巻町長)

定員 300名(申込先着順)

入場料 無料

### 提携弁護士決定のお知らせ

このたび、当会会長岡本森廣と弁護士荒井俊且とで提携弁護士業務に関する覚書を締結し

ました。弁護士相談(有料)を希望する会員は、当会電話相談担当までお申し込み下さい。

### 本会の催し参加申込方法

FAX・メール・郵送で、催し名、参加者名、会員 No、勤務先、参加証送付先住所、同電話 & FAX 番号(自宅又は勤務先)を明記の上、事務局までお送り下さい。

#### 問合・申込

大阪府建築士会事務局  
〒540-0012 大阪市中央区谷町3-1-17  
TEL.06-6947-1961 FAX.06-6943-7103  
メール [info@aba-osakafu.or.jp](mailto:info@aba-osakafu.or.jp)  
HP <http://www.aba-osakafu.or.jp/>

## Administration

### 行政からのお知らせ

### 平成24年度建設リサイクル法説明会(第2回)を開催

建設リサイクル法のほか、建築物等の解体等作業に伴うアスベスト関係法令等に関する説明会を開催いたします。

主催 大阪府内建築行政連絡協議会建設リサイクル部会  
(大阪府と建築主事を置く府内17市で構成)  
日時 1月24日(木) 13:30～16:30  
(受付開始13:00)  
会場 高槻市立生涯学習センター多目的ホール  
高槻市桃園町2-1  
定員 308名  
参加費 無料  
申込期間 平成24年11月28日(水)～平成25年1月18日(金)  
(ただし、定員になり次第締切)  
問合 大阪府住宅まちづくり部建築指導室  
審査指導課  
Tel.06-6941-0351(内4320)

### 「大阪の住まい活性化フォーラム」設立記念シンポジウム

住まいづくりの新時代  
大阪の住まいカアップのために

主催 大阪の住まい活性化フォーラム(一財)大阪住宅センター  
日時 1月15日(火) 13:30～16:30  
会場 ホテルプリムローズ大阪2階鳳凰  
大阪市中央区大手前3-1-43

定員 200名(先着順)

申込締切 1月10日(木)

#### ■基調講演

・大垣尚司(立命館大学教授)  
住まいづくりの新時代:ストック社会の暮らし・住まいはどう変わる  
・島原万丈(リクルート住まい研究所主任研究員)  
中古住宅流通・リノベーション市場の課題と今後の展望

このINFORMATIONページの内容は本会ホームページのトップページにも同時掲載しています。本会ホームページからも予約することができます。詳細は下記の本会ホームページへアクセスしてください。(建築情報委員会)

【大阪府建築士会ホームページ】 <http://www.aba-osakafu.or.jp/>

・山本武司(株)シンプルハウス代表取締役)  
大阪の住まいリノベーション最前線(事例紹介等)

パネルディスカッション

テーマ:中古住宅流通・リフォーム・リノベーション市場の活性化に向けて

個別相談会(事前申込者先着10組まで)

詳細はHPをご覧ください。

<http://osaka-sumai-refo.com/>

申込の間合 府民お問合せセンター

「ビビッとライン」

Tel.06-6910-8001

### 大阪府住宅省エネルギー-施工技術者講習会

木造住宅生産を担う大工・工務店を対象に住宅省エネルギー-施工技術講習会を実施します。

講習会日程 下記日程のうち、1日ご参加ください。  
1月:11日(金)、16日(水)、22日(火)、30日(水)

2月:6日(水)、14日(木)、20日(水)、26日(火)

時間 9:15～16:30

会場 大阪木材相互市場4階会議室

大阪市港区福崎1-2-1

費用 1,000円(テキスト・教材費含)

定員 30名(定員なり次第締切)

問合 大阪府地域産材活用フォーラム事務局

(一財)大阪住宅センター

Tel.06-6253-0073

大阪の住まいカアップ  
第1回リフォーム・リノベーションコンクール

大阪府内でのリフォーム・リノベーションの事例を募ります。

主催 大阪の住まい活性化フォーラム

(一財)大阪住宅センター

応募期間 1月15日(火)～2月15日(金)

当日消印有効

問合 大阪府住宅まちづくり部居住企画課

住宅施策推進グループ

Tel.06-6941-0351(内3032)

詳細はHPをご覧ください。

<http://osaka-sumai-refo.com/>

## Others

### その他のお知らせ

### 2012年度 日本建築学会近畿支部設計競技

主催 (社)日本建築学会近畿支部  
グリーンコンクリート研究センター  
課題 「コンクリートと木のコラボレーションによる持続可能な住まいと地域環境の設計」第3回

サービス付き高齢者集合住宅の設計  
本課題は、「コンクリートと木とのコラボレーション」、「地球環境と地域社会の持続可能性」という2つの視角から考えることを主眼としており、2010年度、2011年度に引き続き3度目の実施となります。今年度は現実の敷地と機能を想定し、コンクリートと木のコラボレーションによる新たな建築デザインの具現化に向けた提案を求めます。機能としては、サービス施設が併設する高齢者向けの賃貸集合住宅としますが、最優秀作品は該当敷地で実現します。詳細はHPをご覧ください。

締切期日 1月31日(木)17:00まで必着

問合 (社)日本建築学会近畿支部

Tel.06-6443-0538

<http://kinki.aij.or.jp/>

締切期日 1月31日(木)17:00まで必着

問合 (社)日本建築学会近畿支部

Tel.06-6443-0538

<http://kinki.aij.or.jp/>

### 年賀状、絵葉書に描かれた懐かしい明治・大正・昭和の建築たちの展示

再生された美しい東京駅舎、旧帝国ホテル、旧大阪市役所、大阪刑務所、旧堺灯台、天王貯水池など。

日程 1月12日(土)～1月19日(土)

時間 10:00～20:00(土日祝は18:00まで、19日は17:00まで)

会場 堺市立東図書館

南海高野線北野田駅前

問合 明治建築研究会 Tel.072-236-3357

### 第12回村野藤吾建築設計図面展

～都市を形づくる村野藤吾のファサードデザイン～

本展では、村野藤吾が都市の中で試みた大小21件の建築作品を取り上げて、端正で格調の高いデザインに込められた建築思想の在りか確かめてみたいと思います。

会期 2月4日(月)～5月6日(月・祝)

休館日 日曜・祝日、2/25(火)・2/26(水)、3/12(火)・3/13日(水)。

ただし4/28日(日)～5/6日(月)までは毎日開館。

時間 10:00～17:00(入館は16:30まで)

会場 京都工芸繊維大学美術工芸資料館

京都市左京区松ヶ崎御所海道町

入場 一般200円

■記念シンポジウム

日時 4月20日(土) 14:00～17:00

(開場:13:30)

会場 京都工芸繊維大学60周年記念会館

1階記念ホール

テーマ 村野藤吾の都市へのまなざし

パネリスト

塚本由晴(建築家・東京工業大学大学院准教授)

酒井一光(建築史家・大阪歴史博物館学芸員)

司会 松隈 洋

(京都工芸繊維大学美術工芸資料館教授)

定員 150名

入場 無料(当日先着順)

問合 京都工芸繊維大学美術工芸資料館

Tel.075-724-7924

### 大阪府建築士会活動報告 公益社団法人への移行に向けて

主役の社会貢献委員会  
伊藤治正(社会貢献委員会委員長)

社会貢献委員会は、四つの分科会と三つのWG(ワーキンググループ)で構成されています。全体会議は、理事会の終了後に毎月開催しています。

「地域分科会」は、大阪市域を除く八地域サークルからなり、各拠点毎に地元会員が活動しており、見学会・勉強会・総会・幹事会等を開催しています。地元町村と密なる連絡調整を図りながら、まちづくりに貢献しています。

「建築相談分科会」は、当士会事務局において、月、水、金の午後に建築電話相談を実施しており、また、住宅相談所相談員を派遣しています。会員同士で研修会を開き、相談業務向上にも努めています。「まちづくり分科会」は、景観法に基づく景観整備機構として、大阪市、吹田市、箕面市から認定されており、地域貢献活動センターとして地域活動している団体に対し、基金から活動助成金を交付しています。勉強会としては、「昭和初期の電鉄会社によるまちづくり」をテーマに、五回に分けて、阪急電鉄、京阪電鉄、近畿日本鉄道、南海電気鉄道、阪神電気



伊藤治正  
(一財)大阪建築防災センター専務理事  
構造計算適合性判定センター長  
まちづくり・法令専攻建築士  
1947年 大阪市阿倍野区生まれ  
1970年 日本大学卒業  
1970年～2007年 大阪府庁勤務  
2007年～現職



天野山金剛寺解体現場の見学会風景

鉄道から講師を迎えて実施しました。「耐震分科会」は、予想される大規模地震対策の一環として、住宅の耐震診断、耐震改修を進め、市町村と一体となって事業を進める準備を開始しています。

「住宅を設計する仲間達WG」は、主に個人で設計活動している会員が、連携してグループで協力しながらPR冊子を作成し、設計活動を推進しています。

「官公庁WG」は、官公庁で活躍している建築士を中心に、その地域と一体となった住みよいまちづくりに貢献しています。当士会は、他の建築関係団体と違って、個人の建築士の集まりであり、官公庁や学校で働く多彩な建築士が会員になって活躍しています。

「被災支援WG」は、大阪で大地震が起こった時、すみやかに被災建築物の応急危険度判定作業が着手できるよう、建築士会員間の連絡体制の整備について準備しています。

この四つの分科会とWGは、当士会が公益社団法人へと移行するために必要な公益目的事業を主として活動しています。当士会が一般の人々の利益の増進に寄与し、常に、より良い社会、まちづくりのために貢献し寄与していく努力をしています。



■淡路瓦のお問い合わせ先  
淡路瓦工業組合  
兵庫県南あわじ市湊134  
Tel.0799-38-0570 Fax.0799-37-2030  
info@a-kawara.jp  
http://www.a-kawara.jp/



# 淡路瓦イズム

## 『黒燻 kuro-ibushi』

400年の歴史を持つ淡路瓦は、『淡路瓦イズム』を通し、これからの時代に社会が必要とする瓦づくりに挑戦しようと考えています。今年には淡路瓦イズムを実践している会社を紹介しています。

栄和瓦産業株式会社は、いぶし瓦の製造では三十五年の歴史があり、今までの単窯焼成の問題点をクリアした「単窯焼成システム」を構築し高品質な瓦づくりをおこなっています。

『黒燻 kuro-ibushi』は極限まで高温で焼き締めることと焼成後の冷却過程で焼成炉内に酸素を入れて瓦表面の炭素膜を燃やすことで、強度と耐寒性に優れた瓦を誕生させました。今まで寒さに弱いと言われてきた「淡路いぶし瓦」の弱点を克服した画期的な瓦であり、瓦の色も今までにない質感の美しい味わいと、



和形黒いぶし瓦

栄和瓦産業株式会社  
http://www.eiwakawara.com/

高い強度を持った新しい屋根瓦です。その特徴から「古瓦」の様な古色の真黒な持ち味を生かして景観保存地区で使われ、海外でも高い人気があります。また高い強度と低い吸水率は和歌山県潮岬の塩害地でも評価され、北海道・東北では凍てない耐寒冷地性能を評価され採用されています。

現在、海外から要望で本葺一体瓦など新しい形状の『黒燻 kuro-ibushi』を研究中です。今までにない古色の真黒な持ち味の進化した瓦を是非ご検討ください。

「新しい日本の伝統美」としての素材を探しているとき、淡路瓦工業組合に相談してみてください。建築士が色々な注文・相談を持ちかけて答えて頂けるところです。きっとヒントが見つかります。

取材：芳村隆史／建築情報委員会委員長

## 理事会報告

文責 本会事務局

日時 十二月十四日(金)十六時〜十七時三十分  
場所 本会会議室

出席 理事四名(委任二名含む) 監事二名  
名誉会長、顧問、相談役他七名

### (一) 二十四年度収支精算報告

決算見込みを収支差引△約六〇万円の予測で報告した。

収入では木造耐震講習会の受講者増で約五五〇万円、メーカーリスト広告等の下降で△約四〇万円が見込まれている。

支出では事務局職員の下半期賞与ゼロによる大幅な人件費の削減がある。

### (二) 公益社団法人移行認定の本申請完了

平成二十四年十二月十二日付けで、大阪府知事に宛てて公益社団法人移行認定を受けるべく本申請電子申請を行い、同日受理された通知を確認した。定款では、定時総会の定足数は通常二〇のところを二三で申請している。

事業では、公益目的事業を行うに際して、これまでと変わらない目的であるが、会員に限定する活動は、会員利益を供与していると判断されることになるので行わない。

### (三) 新規建築対象の無料会員体験

平成二十二年から新規建築士登録者を対象として、二年間の無料会員体験を導入してから三年を経過している。

いずれの年度も正規の入会者に繋がらなかったことを報告し、標記体験システムを廃止することとした。

### (四) 提携弁護士と業務に関する覚書締結

荒井俊且氏(荒井総合法律事務所)と本会間で、本会の所属する会員の法律相談を行うことを合意して覚書を締結し、建築相談時などを中心に活用する。

なお、弁護士会のADRとは二線を画すことになる。

## 建築相談

建築士の見たトラブル事例(六)

騒音トラブル

編構成 橋本頼幸

今月の「建築相談」コーナーは、相談委員の羽木みどり委員にご協力いただきました。

先月に引き続き「騒音問題」に関する話題ですが、今月は騒音の種類や内容を整理していただきました。トラブルになる前に、万が一トラブルになった場合、参考にしてください。

### (一) 建物の内部で発生する音

(イ) 上下階の音の問題  
マンションなどでは、上階の住人が発する音に對してしばしば問題になります。上下階のトラブルは、騒音源が直上階だと思っても、その隣の住居の音が直上階の音のように錯覚されることもあります。

床などの仕上げ材で多少は緩和されますが、床スラブと天井間の空間が太鼓のように音を増幅させることもあります。

また、音には高音域と低音域で遮音や吸音の特徴が異なり、対策方法も変わるので、トラブルになった場合は実際の音質を確かめることも必要です。

木造二軒屋の上下階、特に二世帯住居における音の問題も増えています。家族といえども生活時間や生活習慣の違いを考慮し、木造での防音対策の特徴やできることできないことなどを考慮した、プランの段階での注意がトラブルを未然に防ぐために大切です。

### (ロ) 配管を伝って入ってくる音

ダクトを通じて入ってくる音や給排気ファン、エアコン室外機などが問題になっているものの、給水管のウォーターハンマー現象、排水音によるもの、エアコンの音、なども騒音源になる

ケースがあります。

### (二) 外部から入ってくる騒音

#### (イ) 直接音

最近では窓サッシの気密性が上がったことやペアガラス化により防音性能が上がり、サッシからの音の透過以上に、ダクトや室内の給排水による騒音が問題なるケースがあります。室内が静かになったからこそ、ダクトを通して入ってくる外部の自動車などの騒音や排水音が気になるようになっています。道路などの騒音源に面した部位の給排気口では、防音ダクトや防音型のベントキャップを使うことも有効です。

#### (ロ) 反射音

道路を挟んで向かい合う外壁間で音が反射し増幅して入ってくる音が問題になるケースもあります。ひどい場合は、道路での話し声がまるで耳の横で話しているかのように聞こえるようです。その場合は、塀の吸音性能や外壁材などの検討が有効です。また、内装(床・壁・天井)材の反射・吸音性能などの検討で、室内での響きを調整することで改善されることがあります。

音に対する感受性は人によってかなり差がありますが、相談を受けている中で、精神的なものに起因するもの、過剰反応と思われるもの、被害妄想ではないかと思われるようなケースがあるのも事実です。建築技術的な対処で解決できるものではないものがあります。

自然に反する現代の生活スタイルや、詰め込みすぎた住環境の中で生活する上では、生活習慣や精神的なフォローも必要なのかもしれません。騒音問題は生活の快適性を損なうばかりではなく、心身の健康問題も引き起こす原因にもなります。騒音トラブルを未然に防ぐ工夫と配慮は忘れずにしたいものです。

## 編集後記

筑波幸一郎・牧野高尚・荒木公樹

「建築人(けんちくびと)」は今号で四回目を迎えました。木原千利先生は、私たちと同じ大阪府建築士会の会員で、関西を代表する建築家です。多岐にわたる作品の数々を生み出す本質に迫りたいという思いで編集に取り組みました。

一〇ページ下段の「甲陽幼稚園」の写真は、園児三人が並んで柱型のポーズをとった微笑ましいものです。木原先生が園児たちを前に、「あなたたちがこの建物の柱のエピソードを伺いました。この言葉を聞き、住まいや学校、働く場等社会の根幹となる器づくりに携わる職能への思いを深くしました。

木原先生には、来る七月号にて、村野藤吾先生の長年にわたるパートナーを務められた森忠一先生にまつわるお話を再度お聞きする予定です。森先生については、これまで触れられる機会は少なかつただけに貴重な機会となります。

最後になりましたが、今回の特集で多大なご協力をいただいた木原先生と木原千利設計工房の衛藤由佳さんに深く感謝いたします。







## 傘の家 木原千利

昭和初期の平屋建て四軒長屋の端の一軒分、30坪程度の敷地で二方道路に面している。

周囲は古い家並みのため人間のスケールを超える建物は建っていないが、道幅も狭く隣家との距離がないため、内部のプライバシーの確保と、外に対して圧迫感を感じさせない工夫の必要性が生じた。

そこで円をふたつ合せた平面構成をとり軒を低くおさえ、周辺への光と風をできるだけ妨げることのない形態とした。角のない円形は周囲に柔らかい雰囲気とシンボリックな効果をもたらしてくれた。

そしてこの円は鉄骨と木造の混合である。

半径3.25mの開いたから傘を、ふたつ重ねた形で屋根を構成し、車庫上部の中2階の居間を中心に、1階の食堂と2階のホールが一室でつながり、30坪ほどの住宅に大きな広がりをもたらしている。

また、ふたつの円の交点を中心に扇状につくられた庭は、道路側に設けられた円弧状の塀で囲まれており、守られた中庭となっている。この中庭には玄関、食堂、半地下の小間、中2階の居間、2階のホール、廊下が面しているが、各室から見る中庭に植え込まれた木々や射し込む光は、見える角度によって異なった印象を与えてくれる。

道路側円弧状の塀には、建物平面をモチーフとしたトンボを想わせるスリガラスがはめ込まれており、昼間は外を通る人や物の影が写り、内より確認できる。夜は内のあかりがもれ出て、庭木の影を写す。

ほんのわずかな敷地であるにもかかわらず、光、風、光景の変化に伴い、毎日新鮮な発見や楽しみ方が生まれた。

撮影：松村芳治

